

わたしたちの社会と法				単位数	2単位
授業コード	12375	科目ナンバリング	150Z0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第2期
担当者氏名	浅沼 友恵				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
生まれてから死ぬまで、私たちが関わる(あるいは、関わるかもしれない)さまざまな法制度をわかりやすく解説する。法学の基礎(法の機能や道徳との違い、優先順位など)、裁判員制度に関する基礎知識も学ぶ。特に裁判員制度は基礎的な知識は不要とされているものの、刑法の一般知識は最低限度必要かと思われるため、刑法の基本的な知識を習得する。また、刑法に関して、女性への人権侵害に関する条項の問題点などについて世界と日本の対比も交えながら考察していきたい。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)	
1	法律の基礎や裁判員制度にかかわる基礎知識(刑法の基礎部分)を習得する。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	好みや感情によってではなく客観公平な目で正義を見きわめる力(legal mind という)を養う。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	正義や権利擁護について考えることができるようになる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	毎回の授業を視聴して、レポートを提出していただきます。提出されたレポートの内容と期末テストを合わせて、総合的に理解度を判定します。			1/2/3	
2	①全体の3分の2以上の出席ならびにその授業の課題レポートの提出(毎回manaba folioからの提出)50%			1/2/3	
3	②期末テスト(筆記試験)50%			1/2/3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
I インTRODクシヨン 第1回 法とは何か・国法の体系 第2回 裁判の仕組み・裁判関連の職業 II 刑法と裁判員制度 第3回 刑法の基本理念・犯罪の成立 第4回 刑罰の種類 第5回 刑法の及ぶ範囲 第6回 裁判員制度・裁判員の守秘義務 III 人の誕生 第7回 “人”とは何か 第8回 嫡出・親権・後見について 第9回 未成年者と法 第10回 少年法と現代社会 第11回 子供の人権条約について IV 家族と法 第12回 婚姻の効力 第13回 夫婦別氏制度 第14回 夫婦の財産関係 第15回 離婚の効力					

<p>定期試験 第16回目に定期試験（筆記式）を実施する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法 定期試験終了後、解答・解説します。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 予習はテキストの次回のテーマの部分に目を通すことを希望します（30分程度）。授業中はノートの取り方に工夫をしてください。特に説明なども書き加え復習しやすいノートの作成を希望します。（復習時間は1時間程度）試験前にまとめて復習しようとする多岐にわたる内容を網羅することが難しいため、その都度配布されたプリントやノートの内容を見直し定着をはかるように努めてください。また、日常生活の中でニュースや新聞、ネットなど関連する記事に注目してください。</p>
<p>必携書（教科書販売） <必携書> 『現代法学入門』（有斐閣双書）、伊藤正巳 加藤一郎、有斐閣 ISBN-13：978-4641112568 <参考書>すでに六法を所有している場合は購入不要。 『デイリー六法』、三省堂、2024年版 2024年9月下旬発行のため、ISBN番号は未定。</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外） なし。</p>
<p>オフィスアワー 授業の前後に質問を受け付けます。</p>
<p>連絡先 Email:s8001@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 すでに六法を所有している場合は、再度購入する必要はありません。 課題やレポート提出のために、manaba folio/Google classroom/Wordが使えるようにしておきましょう。</p>

わたしたちの社会と政治				【単位数】	2単位
授業コード	12412	科目ナンバリング	150Z0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	小田川 大典				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	1 講義				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
本授業は、政治学の基礎を学ぶことで、現代政治の諸問題を理解し、政治学の知見を踏まえた考え方を修得することを目的とする。授業では、文学作品を含む課題図書レポートを三回ほど課し、現代政治の諸問題について検討する機会を持つ。これらを総合し政治学分野における現代的課題を考察する。授業時間外でもmanaba folio で課題(四択問題)を提示し自主学習を行う。					
アクティブラーニングの実施内容		発見学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	政治学について基本的な知識を身につける。			知識・技能	
2	現代政治の諸問題について自分の議論を組み立て、適切に文章化できる。			思考・判断・表現力	
3	現代の政治についての知識をもとに、社会のさまざまな問題に主体的に取り組むことができる。			主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	課題図書『動物農場』についてのレポート(字数・段落分け・内容)(50%)			1/2/3	
2	教科書『女性のいない民主主義』についてのレポート(字数・段落分け・内容)(30%)			1/2/3	
3	最終回に実施する『ハーモニー』についてのレポート(字数・段落分け・内容)(20%)			1/2/3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		該当なし。			
実務経験の授業への活用方法					
該当なし。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
【授業の予定】					
1. イントロダクションー「世界がもし100人の村だったら」					
2. 政治学入門(前半)ージェンダー研究の知見を踏まえて					
3. 政治学入門(後半)ージェンダー研究の知見を踏まえて					
4. 「民主主義」の定義を問い直す(前半)ージェンダー研究の知見を踏まえて					
5. 「民主主義」の定義を問い直す(後半)ージェンダー研究の知見を踏まえて					
6. 演習1: 課題図書ジョージ・オーウェル『動物農場』を題材に					
7. 「政策」は誰のためのものか(1)ー福祉国家は男女平等を推進するか?					
8. 「政策」は誰のためのものか(2)ー「男性稼ぎモデル」はなぜ変えにくいのか?					
9. 「政策」は誰のためのものか(3)ー政策の変化はどのようにして生じるか?					
10. 誰が、どのように「政治家」になるのか(1)ー女性議員の割合がふえないのはなぜ?					
11. 誰が、どのように「政治家」になるのか(2)ー女性議員の割合がふえないのはなぜ?					
12. 演習2: 前田健太郎『女性のいない民主主義』を題材に					
13. 伊藤計劃『ハーモニー』(ハヤカワ文庫、2010)前半					
14. 伊藤計劃『ハーモニー』(ハヤカワ文庫、2010)後半					
15. 演習3: 「経験機械」の政治哲学					

<p>定期試験</p> <p>期末テストは実施しないが、三回のレポートを課す。manaba folio を使って提出すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オーウェル『動物農場』についてのレポート（800字程度） 2. 前田健太郎『女性のいない民主主義』についてのレポート（800字程度） <p>試験のフィードバックの方法</p> <p>コメントを manaba folio で発表する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</p> <p>（予習）この授業では毎回出席確認用の4択問題を課します。問題は事前に提示するので、予習段階では配布された資料を読み、その問題について、自分なりの答を考えてください（2時間）。</p> <p>（復習）この授業では毎回出席確認用の4択問題を課します。復習段階では授業の内容を踏まえ、解答してください（2時間）。</p>
<p>必携書（教科書販売）</p> <p><必携書></p> <p>『女性のいない民主主義』前田健太郎, 岩波新書 『動物農場：おとぎばなし』, ジョージ・オーウェル, 岩波文庫</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外）</p> <p>『ハーモニー』伊東計劃、ハヤカワ文庫JA （※）『ハーモニー』には、上記の小説版以外に、コミックス版、アニメーション版がありますが、どれを鑑賞してくれても構いません。</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>一、非常勤講師なのでオフィス・アワーは設けません。質問等は授業終了時か、下記のメールアドレスで受け付けます。 report.odagawa@gmail.com</p> <p>二、授業についての情報はすべて manaba folio でお知らせします。</p>
<p>連絡先</p> <p>report.odagawa@gmail.com</p>
<p>留意事項</p> <p>(1)配布資料と小テストはすべて manaba folio に事前にアップロードします。教室で印刷資料を配布することはありませんので、事前にダウンロードして、プリントアウトして持参するか、スマホ、タブレット、ノートパソコン等に入れて持参してください。資料提示はすべて教室のモニターやスクリーンを用いて行ないます。 (2)出席確認用小テスト、ミニレポートの提出は、すべて manaba folio 上で行ないます。 (3)原則として対面で実施します。</p>

わたしたちの社会と経済				単位数	2単位
授業コード	12432	科目ナンバリング	150Z0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第2期
担当者氏名	山本 由美子				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
<p>本授業では日本経済の事例を中心に、経済理論・政策について、ジェンダーの視点を用いて考えていきます。主なテーマは「授業予定」にある通り幅広い内容を扱い、教科書に加えて、時事問題も日経新聞の記事を中心に紹介していきます。一般的な経済知識を身につけられるだけでなく、経済学やそれに基づいた経済政策が私たちの日々の生活、そして学生の皆さんの人生設計にどのような影響を及ぼすかを一緒に考え、議論していきます。事例学習を通じて応用力を身につけることで社会・経済状況が理解できるようになります。</p>					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1. 将来社会人になったときに必要となる経済の基礎知識を習得し説明できる。			知識・技能	
2	2. 社会問題や経済の話題を自分の身の回りのこととして認識し、分析することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	毎週の課題 85% (到達目標1, 2)			1/2	
2	期末レポート 15% (到達目標1, 2)			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<p>1-2. イントロダクション (授業の概要、フェミニスト経済学への招待) 3. アンペイドワーク-人間のニーズとケア 4. ジェンダー統計-社会を把握するツール 5. 世帯 6. 生活時間 7. 労働 8. マクロ経済 9. ジェンダー予算 10. 福祉国家 11. 金融 12. 資本・労働移動 13. 貿易自由化 14. 開発 15. 環境・災害</p>					

<p>定期試験</p> <p>期末レポートは授業で学んだことを基に、自分の気づきについてまとめる。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p> <p>Manaba folio からフィードバックを送信。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</p> <p>(予習) 次週に予定されているテーマに関して教科書の該当部分を熟読し、質問等をまとめ、授業前にmanaba folioへ提出。他にも、新聞を読み、特に社会・経済面のニュースに慣れ親しむこと（約2時間）。</p> <p>(復習) 講義で学んだことをまとめ、授業前後での理解や認識、興味関心を振り返り、次週の章に関する質問とともにmanaba folioへ提出（約1時間）。</p>
<p>必携書（教科書販売）</p> <p>フェミニスト経済学 [2023] 長田華子・金井都・藤原千沙（編）有斐閣（9月販売予定）</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外）</p> <p>なし</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>授業に関する質問は授業後、メール、あるいはmanaba folioで受け付ける。メールを送るときにはタイトルに「清心」と入れるとともに、本文に学科・学年・氏名を記入。</p>
<p>連絡先</p> <p>yumikoyamamoto@okayama-u.ac.jp</p>
<p>留意事項</p> <p>履修するにあたり特別な配慮を必要とする場合は事前に相談すること。</p> <p>講義での説明等に質問がある場合は、遠慮せず尋ねること。</p>

人材育成論				【単位数】	2単位
授業コード	12925	科目ナンバリング	150Z0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第1期、2023年度第2期
担当者氏名	西井 麻美、青山 新吾、片山 裕之、清水 純一、富岡 美佳、豊田 尚吾、西 隆太郎、林 泰資、深谷 信介				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
担当形態	オムニバス				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
<p>これからの持続可能な社会に向けたキャリアデザインや主権者としての自己形成に資する「社会（環境・経済など）」・「文化」・「教育・生涯学習・ESD」の分野にわたるホリスティックな学びを展開する。また、SDG4「質の高い教育をみんなに：全ての人への衡平な質の高い教育と生涯学習の機会を提供する」ことを意図して、大学におけるキャリア教育・リカレント教育として展開する。</p> <p>なお、この授業は、複数学科の教員によりオムニバス方式で担当する。また、特別講義講師を招き、アナウンス業務に従事してこられた経験を踏まえて「伝えることの大切さ」を一緒に考えながら、「伝える技術」について専門的に指導してもらう。</p>					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)	
1	持続可能な社会に向けた「社会（環境、経済など）」・「文化」・「教育・生涯学習・ESD」の分野における人材育成の考え方について説明することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	「社会（環境、経済など）」・「文化」・「教育・生涯学習・ESD」の分野における人材育成の手法を身につけて、自らのキャリア形成に活かすことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	課題提出 60%			1/2	
2	授業への参加態度 40%			1/2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目				実務あり	
実務経験の授業への活用方法					
<p>○助産師としての臨床経験を活かして、学校現場でライフスキル教育を実践してきたことから学生に生きる力をはぐむための実践活動について伝える。</p> <p>○新制作協会会員、日本美術家連盟会員、岡山県展審査会員の経験から、絵画指導、鑑賞指導にあたる。</p> <p>○小学校教員としての勤務経験を活かして、学校現場の実際をリアルなエピソードとして学生と共有しながら、インクルーシブ教育についての対話を深める。</p> <p>○約30年間のアナウンス業務（大分の放送局で7年半、瀬戸内海放送で18年等）や青年海外協力隊員として2年、これらの経験から得た「伝えることの大切さ」、「伝え方」の極意、就職試験での面接やプレゼンテーションでも役立つ「伝える」技術を指導伝授する。</p> <p>○過去30年超、メーカー・シンクタンク・広告会社等にて、国内外の第一線級マーケティング・ブランディング・コンサルティング・デザイン業務に広範に関わる。</p>					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<p>【オリエンテーション】</p> <p>1. オリエンテーション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・西井麻美</p> <p>【社会（経済・自然環境・社会環境）】</p> <p>2. 経済：ウェルビーイング（よい生活、よい生き方）の実現、潜在能力の発揮・・・・・・・・豊田尚吾</p> <p>3. 食：産学連携による食品機能性研究とフードビジネスの新展開・・・・・・・・林 泰資</p> <p>4. 農業経済：世界の食料問題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・清水純一</p> <p>5. マーケティング：その深淵とこれからと・・・・・・・・・・・・・・・・深谷信介</p> <p>【文化】</p> <p>6. 美術：専門家が教える美術鑑賞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・片山裕之</p> <p>【教育】</p> <p>7. 生涯学習・ESD：地域財から探る持続可能性・・・・・・・・・・・・・・・・西井麻美</p> <p>8. “ ”：“ストーリー”を活用した学習・・・・・・・・・・・・・・・・“ ”</p> <p>9. 持続可能な未来をつくるライフスキル：ライフサイクルから見た課題・・・・・・・・富岡美佳</p> <p>10. 多様性を育む教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・“ ”</p> <p>11. ライフスキル教育の実践プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・“ ”</p> <p>12. 幼児期の教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・西隆太郎</p> <p>13. インクルーシブ教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・青山新吾</p> <p>【特別講義】</p> <p>14. 人材育成：プロと一緒に考える自己紹介—自分にあった伝え方・・・・・・・・小笠原ヒロ子</p> <p>【まとめ】</p> <p>15. まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・西井麻美</p>					

<p>定期試験 授業レポート 授業の中で使用するワークシート・課題レポート</p>
<p>試験のフィードバックの方法 留意点について解説する。(資料提示等)</p>
<p>準備学習(予習・復習)に必要な学修内容・時間 参加型学習を取り入れるため、授業外学習として資料を読み要点をまとめること。(約30分)参加した活動について振り返りを各自で行い内容をまとめること。(約30分)課題として出されるものもあるので、十分な資料検索を行い内容を整理し記述すること。授業前に課題(新聞.yahooのニュース記事を読む。長所、短所を考えるなど)を伝えるので、家で実践してきてもらいたい。(約1時間)</p>
<p>必携書(教科書販売) <必携書> 『ESDがグローバル社会の未来を拓く -SDGsの実現をめざして』西井麻美・池田満之・治部眞里・白砂伸夫編著、ミネルバ書房、2020年</p>
<p>必携書・参考書(教科書販売以外) <参考書等> 『持続可能な開発のための教育(ESD)の理論と実践』西井麻美・藤倉まなみ・大江ひろ子・西井寿里編著、ミネルヴァ書房、2015年(初版第2刷) その他、授業中に適宜紹介する</p>
<p>オフィスアワー 授業終了後教室で質問等を受け付ける。またはメールによる質問等を受け付ける。</p>
<p>連絡先 西井：マナバ確定後、連絡用スレッドをマナバにたてる。 富岡：tomiokamika@gmail.com 豊田：toyota@m.ndsu.ac.jp 林：yhayashi@m.ndsu.ac.jp 青山：saoyama@m.ndsu.ac.jp 深谷：s.fukaya@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 学生指導上、履修学生数を100人までとし、申し込み順で登録者を決定する。日程の関係上、授業開催順が変動する場合がある。 本授業は、社会教育主事課程の科目としても、シラバスを文部科学省に提出しているため、提出している内容で作成している。</p>

世界の中のわたしたち				単位数	2単位
授業コード	18010	科目ナンバリング	150Z0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第2期
担当者氏名	小笠原 ヒロ子				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
世界情勢について学んでいくが、まずは自分を育ててくれたふるさと、日本についても学ぶ。授業中は積極的に参加することを求める。世界を学ぶ時に、特定の人物に注目して、その人の視点からそれぞれの国の様子を学ぶ。学期の最後には、岡山発プロジェクトを考えてもらう。これは世界を学んだうえで、岡山(あるいは自分の出身地)を世界にPRしていくには、どのような視点から、なにをアピールしていくかを考える。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	世界の国々について自ら学ぶ			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	学習したものを自分の言葉で伝え、発表できる能力を向上する			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	聞く人を説得し、共感してもらえる心、技術を体得する			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	グループ内のメンバーと協力し、知識を共有し、新しいものを作り上げる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業中の積極的態度 30%			1/2/3/4/5	
2	発表の内容 30%			1/2/3/4/5	
3	最終のレポート 40%			1/2/3/4/5	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
ビジネス、学会等の通訳の実務経験を通じて、世界の最新の情報に接している。その通訳現場で知れた状況を学生に伝えていく。それにより、学生は社会に出たときのための精神的準備ができ、広く社会的慣行についても知識を得る。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己紹介、 2. 岡山についてもっと学ぶ 3. 日本政府の政策 4. ヨーロッパ連合 5. ドイツのヨーロッパ、世界における立場 6. 日本の森林の現状 7. 中国の経済状況、習近平首相 8. アメリカバイデン大統領の政策、成果 9. イギリス 10. ロシア 11. ジェンダーギャップ、女性の問題 12. 岡山発プロジェクト(個人で作成) 13. 人権問題 14. 岡山発プロジェクト (各グループごとに作成) 15. NPO 16. フィードバック 					

定期試験 テーマを決めて 期末に課題提出
試験のフィードバックの方法 16週目に課題、岡山発プロジェクトの解説、フィードバックをする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 発表者を決めるので、発表者は事前に準備して、授業当日、PPTなどを使って、発表する 発表者以外の人、各週のテーマについて、授業の前に調べておく。 授業はディスカッションを多用するので、ディスカッションができるほどの知識を仕入れておく。 1-2時間
必携書（教科書販売） 使用しない。
必携書・参考書（教科書販売以外） なし
オフィスアワー 授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先 s8022@m.ndsu.ac.jp
留意事項 平素から時事問題に興味をもって接しておいてください。 幅広い知識習得を心がけてください

ことばと社会				単位数	2単位
授業コード	18035	科目ナンバリング	150Z0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	高阪 香津美				
時間割備考	2020年度以降入学生対象。2019年度以前入学生は教養科目。 8/9~10, 21~23, 28				
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
日本に暮らす外国人がどのような分野でいかなる課題を抱えながら生活をしているのか、その課題をどうすれば解決することができるのかについて主体的に学び、考えます。また、このテーマは、今、この瞬間も議論がなされ、動いているものであるため、常に、社会の動向に目や耳を傾け、ニュースや新聞記事も扱います。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	物事を批判的に捉えることができる。			思考・判断・表現力	
2	多文化化する日本社会で起きる様々な事象を説明することができる。			知識・技能	
3	授業内容や自らが調べたことをつなげあわせ、課題解決のための方法を考えることができる。			思考・判断・表現力	
4	自分の身の回りで起こっている事柄に関心を持つことができる。			主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	小テスト (20%)			2/4	
2	コミュニケーション問題に関するグループディスカッションの成果発表 (20%)			1/3	
3	日本人住民と外国人住民がともに実施できる防災活動案の作成課題 (20%)			1/3	
4	期末試験 (40%)			1/2/3/4	
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1 本授業の進め方、評価、課題に関する説明、日本語教育能力検定試験、日本語教師検定の紹介、教授者の自己紹介 2 日本に暮らす外国人、多言語・多文化化する岡山県の現状 3 外国人住民が抱えることばの問題 4 「言語サービス」とは 5 日本語非母語話者とのコミュニケーションを考える (グループディスカッション) 6 「やさしい日本語」に関する基礎知識 7 コミュニティ通訳 (主に医療通訳) 8 高齢化する外国人 9 介護を担う外国人 10 外国人児童・生徒に対する教育的課題 (1) 日本の学校 11 外国人児童・生徒に対する教育的課題 (2) 外国人学校 12 外国人児童・生徒に対する教育的課題 (3) 不就学・母語教育 13 日本人住民と外国人住民がともに行う防災活動 (フィードバックと全体共有) 14 ゲストスピーカーを招待し、自身の活動内容を語ってもらう 15 今学期の総復習 					

定期試験 ・16回目に筆記試験を行う。
試験のフィードバックの方法 小テストについては、実施直後に答えあわせと解説を行う。 期末試験については、模範解答をmanabaで掲示する。 その他の提出物については、授業内でフィードバックを行い全体で共有する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 本授業は集中講義であり、1日に複数回連続して授業を実施する。1日に数多くのテーマを扱うため、予習が不可欠である。また、1日の最初の授業回の開始時に小テストを実施するため、前日に学習した内容すべての復習が必要となる。なお、予習・復習のための準備学習には目安として30分を要する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 教科書は用いず、資料を配布する。 参考図書については、適宜、授業中に紹介する。
オフィスアワー 質問は随時、電子メールで受け付ける。
連絡先 katsumikosaka@hotmail.com
留意事項 ・身の回りで起こっている事象に関心を持ち、常にアンテナを張っておくこと。 ・小テストをやむを得ず欠席する場合、可能な限り、事前に理由とともに担当者に連絡をすること。難しい場合は事後でもかまわないので、理由とともに翌日までに担当者に連絡すること。 連絡があった場合に限り、別日に小テストを実施するかどうか理由をみて判断する。なお、別日に小テストを受けることが認められた場合でも得点×0.8とする。

キャリアデザイン基礎				単位数	2単位
授業コード	18040	科目ナンバリング	150Z0-1200-o2	開講年度学期	2023年度第2期
担当者氏名	中西 由美香				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
主体的に自己の進路を選択・決定できる能力を身につけ、社会人として自立していくことができるよう「自己」「企業」「社会」の3方からキャリア形成していくために必要な基礎的な考え方・方法を学ぶ授業です。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	自分自身を理解し、他者に対して効果的に伝えることができる			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	社会の現状を知り、具体的なキャリアをイメージできる			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	今後の課題を見つけ、大学生活について目標を持つことができる			主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度・リアクションペーパー 70%			1/2/3	
2	期末レポート 30%			1/2/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目			実務あり		
実務経験の授業への活用方法					
多様な業種・業界での実績を活かして、社会の実態を踏まえた授業展開を行う。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 オリエンテーション(キャリアをデザインするとはどういうことか) 2 「働く」ことについて考える 3 多様な職業を知る 4 業界・企業を知る①(企業分析) 5 業界・企業を知る② 6 企業が求める人材とは 7 ゲストスピーカー(実態を知る) 8 就職と無縁ではない社会情勢について考える 9 仕事観と働き方の変化について考える 10 働くためのルールを知る 11 自己理解を深める① 12 自己理解を深める② 13 自己アピールをする 14 大学での学びを考える 15 総括					

定期試験 期末レポートを提出
試験のフィードバックの方法 リアクションペーパー等でフィードバックを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 特になし。必要に応じて資料配布あり。
オフィスアワー 授業についての質問等は、授業後受け付けます。
連絡先 s4055@m.ndsu.ac.jp
留意事項

キャリアデザイン発展				単位数	2単位
授業コード	18050	科目ナンバリング	150Z0-2300-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	神崎 充				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
<p>本授業では、国際化や技術革新の波の中で激変している社会の現実を広く知るとともに、その時代を生き抜くキャリアを支える意識・知識・行動の本質を学ぶ。教科書的に用意された答えを知るのではなく、正解のない問題に対して自分で考え、判断し、責任を持って答えを出すことの厳しさと面白さを知り、将来に渡るキャリアデザインへの仮説を形成する。授業の中では具体的な事例への考察を繰り返し、「キャリアを描く(デザインする)」とはどういうことか?に気づき、「キャリア」を自らの責任で描き、自立して生きるための力を強化する。</p> <p>授業形式は講師による講義を基本とするが、実践的な学びを獲得するために、社会人としての課題解決を支える技術を実技について伝授・演習することもある。また、経験豊富な社会人をゲストとして招聘し、その仕事内容や課題認識、キャリアへの考え方を直接学ぶ機会を複数回設けるほか、生徒同士のディスカッションによって他者との切磋琢磨、協働によるアクティブな学習スタイルを随時組み込んでいく。</p>					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)	
1	キャリア形成の基本要素について理解している。			知識・技能	
2	キャリア形成の前提となる社会環境の変化について未来を洞察し、仮説をもつことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
3	他者の考えに対して謙虚に耳を傾け、尊重しながら受け止めたうえで、自らの意見を的確に表明することができる。			思考・判断・表現力/主体性	
4	正解がない課題に対して自ら考え、判断し、仮説のもとで行動を積み重ねることができる。			思考・判断・表現力/主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	受講態度・リアクションペーパー(30%)			1/2/3	
2	期末レポート(70%)			1/2/3/4	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
<p>かつて10数年に渡って株式上場を含む経営変革期を駆け抜けた企業構成員としての職務経験。さらに独立起業し、約20年に渡って経営とキャリアの切り口を融合させた独自の人材育成事業を創造してきた経営・プロフェッショナル職業人としての実務経験を活用する。事業をゼロから立ち上げた経営者であると同時に、経営・キャリア支援の専門家でもある立場から多様な業種・業態でのキャリア・経営問題と向き合ってきた経験を活かし、複雑な現代社会のあり方を紐解き、キャリア形成の本質にアプローチする。学生がその理解のもとで自律的にキャリアと向き合い、創造し、デザインすることを促していく。</p>					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> キャリアデザイン概論と本講義における学びの構造 本授業で駆使する思考法と情報伝達スキル(解説と練習) キャリアデザインのための自己理解Part1. 「事実」の振り返りと意味づけ キャリアデザインのための自己理解Part2. キャリアアンカーの探索 キャリアデザインのための自己理解Part3. 自分の強み・弱みの把握と言葉化 キャリアデザインのための社会洞察Part1. 社会環境を読み解く視点 キャリアデザインのための社会洞察part2. 価値を失わない「仕事」 キャリアデザイン事例講義(1)(社会人ゲストによる講演) 8の講演を踏まえたディスカッション キャリアを支える「生きる力」への構造的理解 キャリアデザイン事例講義(2)(社会人ゲストによる講演) 11の講演を踏まえたディスカッション キャリアデザイン事例講義(3)(社会人ゲストによる講演) 13の講演を踏まえたディスカッション 14. 13の講演を踏まえたディスカッション 本講義全体の振り返りと自らのキャリアデザイン 					

<p>定期試験 最終授業終了後にレポートを提出する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法 manabaの掲示板等にレポート全体の傾向を踏まえたコメントを掲載することでフィードバックを行う。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 講義で示される「次回予告」及び「事前に予習しておくべきこと」について、情報収集や考察による準備を1時間程度行っておくことが望ましい。情報収集手段は、インターネット検索で事足りるケースが多いが、内容によっては新聞・関連書籍・周囲の知人・友人へのヒアリングが効果的な場合もある。また、各回の講義後は、講義内容を振り返り考察する時間を30分程度確保することを推奨する（リアクションペーパー記入を含む）。</p>
<p>必携書（教科書販売）</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外） 必要に応じて資料配布、manabaでの配信によって対応する。</p>
<p>オフィスアワー 質問はメールで受け付ける。</p>
<p>連絡先 s8346@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 ゲストとして招聘する社会人の方々は学生への応援の気持ちで多忙な中協力してくださっている。そのことを忘れず、一人の大人としての礼節と感謝の気持ちをもって話を受け止め、少しでも多くのことを学んで欲しい。</p>

ボランティア実践I				単位数	2単位
授業コード	10265	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	中井 俊雄				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習 / 3 実験・実習・実技				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
<p>自分たちの身の回りで行われている多様なボランティア活動は、社会の様々な課題を背景として行われています。この授業では、ボランティア活動の概念・歴史・社会的意義、活動する上で気を付けなければならない原則やルールなど基礎的な知識を学びます。さらに、体験学習やその後の振り返り等を通して、自らの考え・価値観を言語化し、ボランティア活動への理解を深めます。</p>					
アクティブラーニングの実施内容		体験学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性)	
1	災害被災者やハンセン病元患者、生活困窮の状況にある方々のおかれている状況など、普段あまり接することのない情報や場面に接することで視野を広げ、他者への的確な理解と配慮に基づいた判断と対応ができる力を身につけることができる。			知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
2	初対面の当事者や関係者の方々に共感的態度で接し積極的に学ぶことができる。			知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
3	社会的背景や歴史的問題について考えを述べるができる			知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
4	様々な社会ニーズに対して自分なりの改善策を述べるができる			知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
5	ボランティア活動の原則やルールを理解し、体験活動を通じてボランティア活動の意義や目的を言語化することができる			知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	講義及び体験学習への参加態度 80%			1 / 2 / 3 / 4 / 5	
2	レポート 20%			1 / 2 / 3 / 4 / 5	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
<p>社会福祉協議会で地域福祉活動を実践した27年間のうち、ボランティアセンター、権利擁護センター、生活困窮支援センター等での経験を活かし、ボランティアの基礎的な知識と当事者の理解、必要な価値観等を醸成し、ボランティア活動の今日的意義について理解を深める。</p>					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
I 講義・演習					
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめてのボランティア 2. あなたのまちでやさしさをひろげるために：思いやりの力、つながる力 3. あなたのまちでやさしさをひろげるために：支えあう力 4. ボランティア・NPO活動 5. ボランティア活動を始めるために 6. 赤十字活動とボランティア 7. 災害とボランティア 8. 国際支援活動とボランティア 					
II 体験学習(予定)(順不同)					
9~14					
<ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸内市長島 島内史跡めぐり 愛生園歴史館他 ・国際協力NGO AMDA(アムダ)グループ訪問(岡山市内) ・岡山県ボランティア・NPO活動支援センター訪問(岡山市内) 					
III 体験学習の振り返り					
15. まとめと振り返り					

定期試験 課題レポートの提出
試験のフィードバックの方法 授業の最終日に実践をまとめて発表する
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 （予習）普段から報道等で日々のニュース、時事問題の情報を得ておくこと。 （復習）毎回の授業でその都度必要な参考図書、参考ホームページ情報を紹介する。これらの事前、事後の学習に各1時間程度要する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） なし
オフィスアワー オフィスアワー 木曜日3・4時限 質問は随時、電子メールで受け付ける。
連絡先 nakai@m.ndsu.ac.jp （◎を@に変更してください。）
留意事項 学外体験学習では、瀬戸内市長島他様々な場所を訪問しますので交通費が必要になります。 学外体験学習については、土曜又は日曜に実施となる見込みです。予定については授業時にお知らせします。

ボランティア実践A				単位数	2単位
授業コード	10270	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	中井 俊雄				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習 / 3 実験・実習・実技				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
自分たちの身の回りで行われている多様なボランティア活動は、社会の様々な課題を背景として行われています。この授業では、ボランティア活動の概念・歴史・社会的意義、活動する上で気を付けなければならない原則やルールなど基礎的な知識を学びます。さらに、体験学習やその後の振り返り等を通して、自らの考え・価値観を言語化し、ボランティア活動への理解を深めます。					
アクティブラーニングの実施内容		体験学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能 / 2 思考・判断・表現力 / 3 主体性)	
1	災害被災者やハンセン病元患者、生活困窮の状況にある方々のおかれている状況など、普段あまり接することのない情報や場面に接することで視野を広げ、他者への的確な理解と配慮に基づいた判断と対応ができる力を身につけることができる。			知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
2	初対面の当事者や関係者の方々に共感的態度で接し積極的に学ぶことができる。			知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
3	社会的背景や歴史的問題について考えを述べるができる			知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
4	様々な社会ニーズに対して自分なりの改善策を述べるができる			知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
5	ボランティア活動の原則やルールを理解し、体験活動を通じてボランティア活動の意義や目的を言語化することができる			知識・技能 / 思考・判断・表現力 / 主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	講義及び体験学習への参加態度 80%			1 / 2 / 3 / 4 / 5	
2	レポート 20%			1 / 2 / 3 / 4 / 5	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
社会福祉協議会で地域福祉活動を実践した27年間のうち、ボランティアセンター、権利擁護センター、生活困窮支援センター等での経験を活かし、ボランティアの基礎的な知識と当事者の理解、必要な価値観等を醸成し、ボランティア活動の今日的意義について理解を深める。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
I 講義・演習					
1. はじめてのボランティア					
2. あなたのまちでやさしさをひろげるために：思いやりの力、つながる力					
3. あなたのまちでやさしさをひろげるために：支えあう力					
4. ボランティア・NPO活動					
5. ボランティア活動を始めるために					
6. 赤十字活動とボランティア					
7. 災害とボランティア					
8. 国際支援活動とボランティア					
II 体験学習(予定)(順不同)					
9~14. 体験学習					
・ 瀬戸内市長島 島内史跡めぐり 愛生園歴史館他					
・ 国際協力NGO AMDA(アムダ)グループ訪問(岡山市内)					
・ 岡山県ボランティア・NPO活動支援センター訪問(岡山市内)					
III 体験学習の振り返り					
15. まとめと振り返り					

定期試験 課題レポートの提出
試験のフィードバックの方法 授業の最終日に実践をまとめて発表する
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 （予習）普段から報道等で日々のニュース、時事問題の情報を得ておくこと。 （復習）毎回の授業でその都度必要な参考図書、参考ホームページ情報を紹介する。これらの事前、事後の学習に各1時間程度要する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） なし
オフィスアワー オフィスアワー 木曜日3・4時限 質問は随時、電子メールで受け付ける。
連絡先 nakai@m.ndsu.ac.jp （◎を@に変更してください。）
留意事項 学外体験学習では、瀬戸内市長島他様々な場所を訪問しますので交通費が必要になります。 学外体験学習については、土曜又は日曜に実施となる見込みです。予定については授業時にお知らせします。

日本語表現II				単位数	2単位
授業コード	12150	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	小林 修典				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
この授業では、学術的な小論文の書き方を学び、実際に小論文を書いていく。 自らの考えや意見を、明瞭かつ正確に読み手に伝える技術を身に付ける。 また、資料を適切に小論文で紹介、引用する方法を学ぶ。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	与えられたテーマで小論文(600字程度)を完成できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	自ら選んだテーマで小論文(800字程度)を完成できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	課題 (授業時に提出) 40%			1	
2	学期末に提出する小論文 800字程度 (期末試験に相当) 60%			2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
I インTRODクシヨン					
1 段落					
2 論文の文章					
II 小論文の作文(1)					
3 環境問題					
4 少子化					
5 教育格差					
6 食の安全					
7 児童福祉					
III 資料の要約と引用					
8 要約					
9 引用					
IV 小論文作成(2)					
10 外国人労働者					
11 自然災害					
12 日本の農業					
13 スポーツ					
V まとめ					
14 自由課題の発表 グループ1					
15 自由課題の発表 グループ2					

<p>定期試験 定期試験期間中に小論文（800字程度）を提出する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法 添削して返却する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ・与えられたテーマにそって考えをまとめ、600字の論文を書いて授業時に提出する。（4時間） ・復習として、論文への批評やコメントを検証する。（30分）</p>
<p>必携書（教科書販売）</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外） 必要に応じて、印刷物を配布する。</p>
<p>オフィスアワー 授業時に指示する。</p>
<p>連絡先 shusuke@post.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項</p> <p>1 授業の目的 1) 授業予定一覧に掲げられたテーマについて論文を書くが、この授業の目的は、テーマについて知識を得たり、理解を深めることではない。論文を書く方法を学ぶことである。テーマはあくまでも、話題にすぎない。 2) この授業で学ぶ論文のスタイルは、主として、社会科学の分野でのレポートや学術論文に求められるものである。したがって、随筆などの文学的文章は対象としない。客観的視点での論理的な文章の展開方法や、それにふさわしい文章表現法を学ぶ。 3) 独創的なスタイルではなく、論文としての約束事に従った文章を書く。論文の「型」の習得を目指す。</p> <p>2 授業の進め方 1) 学生は、定められたテーマに関する600字の小論文を9回、800字程度の論文を1回提出する。 2) 提出された小論文は、毎回、クラスで相互に批評する。</p> <p>3 授業の登録について 定員は10名とする。定員を超える希望者がいた場合は、「N抽選」により受講可能者を決定する。</p>

日本語表現B				単位数	2単位
授業コード	12157	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	小林 修典				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
この授業では、学術的な小論文の書き方を学び、実際に小論文を書いていく。 自らの考えや意見を、明瞭かつ正確に読み手に伝える技術を身に付ける。 また、資料を適切に小論文で紹介、引用する方法を学ぶ。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	与えられたテーマで、小論文(600字程度)を完成できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	自ら選んだテーマで、小論文(800字程度)を完成できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	課題 (授業時に提出) 40%			1	
2	学期末に提出する小論文 800字程度 (期末試験に相当) 60%			2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
I イントロダクション					
1 段落					
2 論文の文章					
II 小論文の作成(1)					
3 環境問題					
4 少子化					
5 教育格差					
6 食の安全					
7 児童福祉					
III 資料の要約と引用					
8 要約					
9 引用					
IV 小論文の作成(2)					
10 外国人労働者					
11 自然災害					
12 日本の農業					
13 スポーツ					
V まとめ					
14 自由課題の発表 グループ1					
15 自由課題の発表 グループ2					

<p>定期試験 定期試験期間中に小論文（800字程度）を提出する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法 添削して返却する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ・与えられたテーマにそって考えをまとめ、600字の論文を書いて授業時に提出する。（4時間） ・復習として、論文への批評やコメントを検証する。（30分）</p>
<p>必携書（教科書販売）</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外） 必要に応じて印刷物を配布する。</p>
<p>オフィスアワー 授業時に指示する。</p>
<p>連絡先 shusuke@post.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項</p> <p>1 授業の目的 1) 授業予定一覧に掲げられたテーマについて論文を書くが、この授業の目的は、テーマについて知識を得たり、理解を深めることではない。論文を書く方法を学ぶことである。テーマはあくまでも、話題にすぎない。 2) この授業で学ぶ論文のスタイルは、主として、社会科学の分野でのレポートや学術論文に求められるものである。したがって、随筆などの文学的文章は対象としない。客観的視点での論理的な文章の展開方法や、それにふさわしい文章表現法を学ぶ。 3) 独創的なスタイルではなく、論文としての約束事に従った文章を書く。論文の「型」の習得を目指す。</p> <p>2 授業の進め方 1) 学生は、定められたテーマに関する600字程度の小論文を9回、800字程度の論文を1回提出する。 2) 提出された小論文は、毎回、クラスで相互に批評する。</p> <p>3 授業の登録について 定員は10名とする。定員を超える希望者がいた場合は、「N抽選」により受講可能者を決定する。</p>

日本語表現V				【単位数】	2単位
授業コード	12185	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	森田 恵子、久保田 正彦				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
担当形態	オムニバス				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
<p>本授業は、日本語表現において「伝わる伝え方」を学ぶことで、「聴く(聞く)」と「伝える(話す)」、「読む」「書く」の相関性を理解し、実生活で習慣化できるコミュニケーション力の基礎を修得することを目的とする。</p> <p>全体の授業を通して、ペアワーク、グループワーク、発表、プレゼンテーションなどで「聴く(聞く)」「伝える」の演習を行う中で、学生自身が課題とした点や学んだ要素を日常の中で活かす習慣づくりの機会をもつ。</p> <p>これらを統合し、「コミュニケーション」の分野における「相手を受け取る」「要点や思いが伝わる技術」という課題点も考察する。</p> <p>授業で提示された課題に授業外で取り組み自主学習を行う。</p>					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)	
1	自分自身の「コミュニケーション」(人との関わり方)の状態を知ることができる			思考・判断・表現力/主体性	
2	自己紹介やその他のテーマに対して1分~1分30秒で簡潔に口頭で伝えることができる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	インタビューや日常生活の中で、他者の話を聞く場面において、「傾聴」のポイントを実行できる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	読み手、聴き手に関心を持たせる「タイトル」「キーワード」「構成」作りができるようになる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5	多種多様な人々に伝わる『やさしい日本語』の存在と意義を説明し活用のきっかけを持つことができる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	毎回の授業内でのマナーやワーク、発表、課題点への考察の取り組み方などの受講態度(15%)			1/2/3/4/5	
2	ミニレポート提出(テーマは授業内で伝える)(15%)			1/3/4	
3	「身近なく仕事人」にインタビュー「おすすめの岡山」『やさしい日本語』一連の課題(35%)			1/2/3/4/5	
4	口頭発表による定期試験(14回目の授業で試験テーマを発表)(35%)			1/2/3/4/5	
5					
実務経験のある教員による授業科目				実務あり	
実務経験の授業への活用方法					
元放送局アナウンサー、番組制作の経験、現在はコミュニケーション・マナー講師、フリーアナウンサーとして、行政、企業、医療、教育機関、個人に対しての人財育成に携わっている経験から、日本語表現とコミュニケーションの問題点を多視点で取り上げ、学生に実践的かつ習慣性のある取り組みを促す。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内容の情報共有~「日本語表現」を学ぶということ (森田) 2. 伝える力・聞く(聴く)①~自己紹介① (森田) 3. 伝える力・聞く(聴く)②~自己紹介② (森田) 4. 非言語がもつ力~表情・しぐさ・身体表現などがもつ影響力とは (森田) 5. 「身近なく仕事人(びと)」にインタビュー①~準備、依頼の仕方 (森田) 6. 「身近なく仕事(びと)」にインタビュー②~相手の話を引き出す質問 (森田) 7. 書く力・読む力~新聞、情報誌から見る「伝わる文章」 (久保田) 8. 「おすすめの岡山」を書く①~文章作成 (久保田) 9. 「おすすめの岡山」を書く②~口頭発表 (久保田) 10. 「身近なく仕事人(びと)」にインタビュー③~進捗確認、インタビューの課題点を探る (森田) 11. 「おすすめの岡山」を書く③~まとめ (久保田) 12. 『やさしい日本語』とは①~日本語表現と『やさしい日本語』の共存 (森田) 13. 『やさしい日本語』とは②~『やさしい日本語』基本用語の言い換え書き換え演習 (森田) 14. 「身近なく仕事人(びと)」にインタビュー④~口頭発表 (森田) 15. 定期試験(口頭発表) 16. 【授業】定期試験のフィードバック、まとめなど 					

定期試験 15週目に、口頭発表による定期試験を行う。テーマ、時間は、14週目の授業で伝達する。
試験のフィードバックの方法 <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に提示されたミニレポートについては、進捗を確認しながら授業内でポイント解説を行う ・授業内での口頭発表などについては、進捗を確認しながら、全体、個人へのフィードバックを行う ・「おススメの岡山」のレポートは添削後、返却を行う ・試験のフィードバックは、16週目に実施
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 <ul style="list-style-type: none"> ・授業予定を確認し、そのテーマに関して自分自身の関心点、疑問点をメモし授業に参加すること。 参考資料が提示されている場合は、その資料を熟読しておくこと（約30分）。 ・毎回の授業で自身が発見した課題点に対し取り組んだ記録を残し授業内で共有するための準備（約30分）。 ・予習・復習を通して出てきた疑問点や講師への質問などを適宜記録すること（約10分～20分）。
必携書（教科書販売） なし
必携書・参考書（教科書販売以外） <参考資料> <ul style="list-style-type: none"> ・授業でプリントを配布する ・『やさしい日本語』の授業における参考資料として、岡山県国際課「やさしい日本語」を参照すること。 岡山県のホームページ→国際課→『やさしい日本語』→「やさしい日本語の手引き」で検索。 授業時に、「やさしい日本語の手引き」を配布する
オフィスアワー 質問は必要に応じて、電子メールで受け付ける
連絡先 s8268@m.ndsu.ac.jp
留意事項 <ul style="list-style-type: none"> ・本授業では、学生たちで授業を作り上げていく意識をもってほしい。発表の場への貢献を大いに望むが、上手に流ちょうに発表することを評価するわけではない。 ・マナバ、Nサボからの発信を見逃さないように気を付けること ・授業での説明そのほか、疑問点不明点は遠慮せずに尋ねること。 ・定員は60名とする。

日本語表現D				【単位数】	2単位
授業コード	12190	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	森田 恵子、久保田 正彦				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
担当形態	オムニバス				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
<p>本授業は、日本語表現において「伝わる伝え方」を学ぶことで、「聴く(聞く)」と「伝える(話す)」、「読む」「書く」の相関性を理解し、実生活で習慣化できるコミュニケーション力の基礎を修得することを目的とする。</p> <p>全体の授業を通して、ペアワーク、グループワーク、発表、プレゼンテーションなどで「聴く(聞く)」「伝える」の演習を行う中で、学生自身が課題とした点や学んだ要素を日常の中で活かす習慣づくりの機会をもつ。</p> <p>これらを統合し、「コミュニケーション」の分野における「相手を受け取る」「要点や思いが伝わる技術」という課題点も考察する。</p> <p>授業で提示された課題に授業外で取り組み自主学習を行う。</p>					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)	
1	自分自身の「コミュニケーション」(人との関わり方)の状態を知ることができる			思考・判断・表現力/主体性	
2	自己紹介やその他のテーマに対して1分~1分30秒で簡潔に口頭で伝えることができる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	インタビューや日常生活の中で、他者の話を聞く場面において、「傾聴」のポイントを実行できる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	読み手、聴き手に関心を持たせる「タイトル」「キーワード」「構成」作りができるようになる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5	多種多様な人々に伝わる『やさしい日本語』の存在と意義を説明し活用のきっかけを持つことができる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	毎回の授業内でのマナーやワーク、発表、課題点への考察の取り組み方などの受講態度(15%)			1/2/3/4/5	
2	ミニレポート提出(テーマは授業内で伝える)(15%)			1/3/4	
3	「身近なく仕事人」にインタビュー「おすすめの岡山」『やさしい日本語』一連の課題(35%)			1/2/3/4/5	
4	口頭発表による定期試験(14回目の授業で試験テーマを発表)(35%)			1/2/3/4/5	
5					
実務経験のある教員による授業科目				実務あり	
実務経験の授業への活用方法					
元放送局アナウンサー、番組制作の経験、現在はコミュニケーション・マナー講師、フリーアナウンサーとして、行政、企業、医療、教育機関、個人に対しての人財育成に携わっている経験から、日本語表現とコミュニケーションの問題点を多視点で取り上げ、学生に実践的かつ習慣性のある取り組みを促す。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内容の情報共有~「日本語表現」を学ぶということ (森田) 2. 伝える力・聞く(聴く)①~自己紹介① (森田) 3. 伝える力・聞く(聴く)②~自己紹介② (森田) 4. 非言語がもつ力~表情・しぐさ・身体表現などがもつ影響力とは (森田) 5. 「身近なく仕事人(びと)」にインタビュー①~準備、依頼の仕方 (森田) 6. 「身近なく仕事(びと)」にインタビュー②~相手の話を引き出す質問 (森田) 7. 書く力・読む力~新聞、情報誌から見る「伝わる文章」 (久保田) 8. 「おすすめの岡山」を書く①~文章作成 (久保田) 9. 「おすすめの岡山」を書く②~口頭発表 (久保田) 10. 「身近なく仕事人(びと)」にインタビュー③~進捗確認、インタビューの課題点を探る (森田) 11. 「おすすめの岡山」を書く③~まとめ (久保田) 12. 『やさしい日本語』とは①~日本語表現と『やさしい日本語』の共存 (森田) 13. 『やさしい日本語』とは②~『やさしい日本語』基本用語の言い換え書き換え演習 (森田) 14. 「身近なく仕事人(びと)」にインタビュー④~口頭発表 (森田) 15. 定期試験(口頭発表) 16. 【授業】定期試験のフィードバック、まとめなど 					

定期試験 15週目に、口頭発表による定期試験を行う。テーマ、時間は、14週目の授業で伝達する。
試験のフィードバックの方法 <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に提示されたミニレポートについては、進捗を確認しながら授業内でポイント解説を行う ・授業内での口頭発表などについては、進捗を確認しながら、全体、個人へのフィードバックを行う ・「おすすめの岡山」のレポートは添削後、返却を行う ・試験のフィードバックは、16週目に実施
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 <ul style="list-style-type: none"> ・授業予定を確認し、そのテーマに関して自分自身の関心点、疑問点をメモし授業に参加すること。 ・参考資料が提示されている場合は、その資料を熟読しておくこと（約30分）。 ・毎回の授業で自身が発見した課題点に対し取り組んだ記録を残し授業内で共有するための準備（約30分）。 ・予習・復習を通して出てきた疑問点や講師への質問などを適宜記録すること（約10分～20分）。
必携書（教科書販売） なし
必携書・参考書（教科書販売以外） <参考資料> <ul style="list-style-type: none"> ・授業でプリントを配布する ・『やさしい日本語』の授業における参考資料として、岡山県国際課「やさしい日本語」を参照すること。 岡山県のホームページ→国際課→『やさしい日本語』→「やさしい日本語の手引き」で検索。 授業時に、「やさしい日本語の手引き」を配布する
オフィスアワー 質問は必要に応じて、電子メールで受け付ける
連絡先 s8268@m.ndsu.ac.jp
留意事項 <ul style="list-style-type: none"> ・本授業では、学生たちで授業を作り上げていく意識をもってほしい。発表の場への貢献を大いに望むが、上手に流ちょうに発表することを評価するわけではない。 ・マナバ、Nサポからの発信を見逃さないように気を付けること ・授業での説明のほか、疑問点不明点は遠慮せずに尋ねること。 ・定員は60名とする。

日本語表現VI				【単位数	2単位
授業コード	12195	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第2期
担当者氏名	森田 恵子、久保田 正彦				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
担当形態	オムニバス				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
<p>本授業は、日本語表現において「伝わる伝え方」を学ぶことで、「聴く(聞く)」と「伝える(話す)」、「読む」「書く」の相関性を理解し、実生活で習慣化できるコミュニケーション力の基礎を修得することを目的とする。全体の授業を通して、ペアワーク、グループワーク、発表、プレゼンテーションなどを行う。日頃使っている言葉や敬語表現の棚卸し、幅広い書籍を通しての言葉や表現の発見、電話対応での言葉の選び方を通して、「聴く(聞く)」「伝える」の演習を繰り返す。</p> <p>これらを統合し、「コミュニケーション」の分野における「相手を受け取る」「要点や思いが伝わる技術」という課題点も考察する。授業で提示された課題に授業外で取り組み自主学習を行う。</p>					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)	
1	自分自身の「コミュニケーション」(人との関わり方)の状態を知ることができる			思考・判断・表現力/主体性	
2	自己紹介やその他のテーマに対して「構成法」を使い簡潔に伝えることができる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	短い文章で要点や思いを端的に伝える「キーワード」が作れるようになる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	他者や事柄などを授業や日常の中で調べ、また聞く場面において、「傾聴」「質問」の要点を実行できる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5	様々な場面で質問や意見を問われた際に、臨機応変に対応する練習ができるようになる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	毎回の授業内でのマナーやワーク、発表、課題点への考察の取り組み方などの受講態度(15%)			1/2/3/4/5	
2	ミニレポート提出(テーマは授業内で伝える)(15%)			1/3/4	
3	「他己紹介」「ブックリストの交換」「フリートーク」一連の課題(35%)			1/2/3/4/5	
4	口頭発表による定期試験(14回目の授業で試験テーマを発表)(35%)			1/2/3/4	
5					
実務経験のある教員による授業科目				実務あり	
実務経験の授業への活用方法					
元放送局アナウンサー、番組制作の経験、現在はコミュニケーション・マナー講師、フリーアナウンサーとして、行政、企業、医療、教育機関、個人に対しての人財育成に携わっている経験から、日本語表現とコミュニケーションの問題点を多視点で取り上げ、学生に実践的かつ習慣性のある取り組みを促す。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内容の情報共有～「日本語表現」を学ぶ意義と目的 (森田) 2. 伝える力と構成力～自己紹介を通して、リソース、組み立て、アピールポイントの考察 (久保田) 3. 聞く(聴く)力①～「聴く」「受容」「承認」の段階とは (森田) 4. 聞く(聴く)力②～「質問の種類」 (久保田) 5. 他己紹介①～他者を取材するポイントと他者取材 (森田) 6. 他己紹介②～他者の魅力をアピールする(口頭発表) (森田) 7. 他己紹介③～他者の魅力を紹介する(文章表現) (久保田) 8. 「ブックリスト交換」①～準備、リストの作り方 (森田) 9. 言葉づかい～日常の言葉づかい、敬語、クッション言葉、NGワード (森田) 10. 電話対応～「電話のかけかた」「受け方」から見る日本語表現 (森田) 11. フリートーク①～当日に提示されたテーマを用い「何が話しくかったか」の考察 (森田) 12. フリートーク②～情報収集の引き出しの作り方 (久保田) 13. ブックリスト交換②～リスト交換をし、好きな本を伝えあう、聞きあう (森田) 14. ブックリスト交換③～ブックリストについての口頭発表 (森田) 15. 定期試験(口頭発表) 16. 【授業】定期試験のフィードバック、まとめなど 					

<p>定期試験</p> <p>15週目に、口頭発表による定期試験を行う。テーマ、時間は、14週目の授業で伝達する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に提示されたミニレポートについては、進捗を確認しながら授業内でポイント解説を行う ・授業内での口頭発表などについては、進捗を確認しながら、全体、個人へのフィードバックを行う ・「他己紹介」のレポートは添削後、返却を行う ・試験のフィードバックは、16週目に実施
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業予定を確認し、そのテーマに関して自分自身の関心点、疑問点をメモし授業に参加すること。 <p>参考資料が提示されている場合は、その資料を熟読しておくこと（約30分）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業で自身が発見した課題点に対し取り組んだ記録を残し授業内で共有するための準備（約30分）。 ・予習・復習を通して出てきた疑問点や講師への質問などを適宜記録すること（約10分～20分）。
<p>必携書（教科書販売）</p> <p>使用しない</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外）</p> <p><参考資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業でプリントを配布する
<p>オフィスアワー</p> <p>質問は必要に応じて、電子メールで受け付ける</p>
<p>連絡先</p> <p>s8268@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本授業では、学生たちで授業を作り上げていく意識をもってほしい。発表の場への貢献を大いに望むが、上手に流ちょうに発表することを評価するわけではない。 ・manaバ、Nサボからの発信を見逃さないように気を付けること ・授業での説明そのほか、疑問点不明点は遠慮せずに尋ねること。 ・定員は60名とする。

日本語表現E				【単位数	2単位
授業コード	12200	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第2期
担当者氏名	森田 恵子、久保田 正彦				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	2 演習				
担当形態	オムニバス				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
<p>本授業は、日本語表現において「伝わる伝え方」を学ぶことで、「聴く(聞く)」と「伝える(話す)」、「読む」「書く」の相関性を理解し、実生活で習慣化できるコミュニケーション力の基礎を修得することを目的とする。全体の授業を通して、ペアワーク、グループワーク、発表、プレゼンテーションなどを行う。日頃使っている言葉や敬語表現の棚卸し、幅広い書籍を通しての言葉や表現の発見、電話対応での言葉の選び方を通して、「聴く(聞く)」「伝える」の演習を繰り返す。</p> <p>これらを統合し、「コミュニケーション」の分野における「相手を受け取る」「要点や思いが伝わる技術」という課題点も考察する。授業で提示された課題に授業外で取り組み自主学習を行う。</p>					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)	
1	自分自身の「コミュニケーション」(人との関わり方)の状態を知ることができる			思考・判断・表現力/主体性	
2	自己紹介やその他のテーマに対して「構成法」を使い簡潔に伝えることができる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	短い文章で要点や思いを端的に伝える「キーワード」が作れるようになる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	他者や事柄などを授業や日常の中で調べ、また聞く場面において、「傾聴」「質問」の要点を実行できる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5	様々な場面で質問や意見を問われた際に、臨機応変に対応する練習ができるようになる			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	毎回の授業内でのマナーやワーク、発表、課題点への考察の取り組み方などの受講態度(15%)			1/2/3/4/5	
2	ミニレポート提出(テーマは授業内で伝える)(15%)			1/3/4	
3	「他己紹介」「ブックリストの交換」「フリートーク」一連の課題(35%)			1/2/3/4/5	
4	口頭発表による定期試験(14回目の授業で試験テーマを発表)(35%)			1/2/3/4	
5					
実務経験のある教員による授業科目				実務あり	
実務経験の授業への活用方法					
元放送局アナウンサー、番組制作の経験、現在はコミュニケーション・マナー講師、フリーアナウンサーとして、行政、企業、医療、教育機関、個人に対しての人財育成に携わっている経験から、日本語表現とコミュニケーションの問題点を多視点で取り上げ、学生に実践的かつ習慣性のある取り組みを促す。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内容の情報共有～「日本語表現」を学ぶ意義と目的 (森田) 2. 伝える力と構成力～自己紹介を通して、リソース、組み立て、アピールポイントの考察 (久保田) 3. 聞く(聴く)力①～「聴く」「受容」「承認」の段階とは (森田) 4. 聞く(聴く)力②～「質問の種類」 (久保田) 5. 他己紹介①～他者を取材するポイントと他者取材 (森田) 6. 他己紹介②～他者の魅力をアピールする(口頭発表) (森田) 7. 他己紹介③～他者の魅力を紹介する(文章表現) (久保田) 8. 「ブックリスト交換」①～準備、リストの作り方 (森田) 9. 言葉づかい～日常の言葉づかい、敬語、クッション言葉、NGワード (森田) 10. 電話対応～「電話のかけかた」「受け方」から見る日本語表現 (森田) 11. フリートーク①～当日に提示されたテーマを用い「何が話しくかったか」の考察 (森田) 12. フリートーク②～情報収集の引き出しの作り方 (久保田) 13. ブックリスト交換②～リスト交換をし、好きな本を伝えあう、聞きあう (森田) 14. ブックリスト交換③～ブックリストについての口頭発表 (森田) 15. 定期試験(口頭発表) 16. 【授業】定期試験のフィードバック、まとめなど 					

定期試験 15週目に、口頭発表による定期試験を行う。テーマ、時間は、14週目の授業で伝達する。
試験のフィードバックの方法 ・授業中に提示されたミニレポートについては、進捗を確認しながら授業内でポイント解説を行う ・授業内での口頭発表などについては、進捗を確認しながら、全体、個人へのフィードバックを行う ・「他己紹介」のレポートは添削後、返却を行う ・試験のフィードバックは、16週目に実施
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ・授業予定を確認し、そのテーマに関して自分自身の関心点、疑問点をメモし授業に参加すること。 参考資料が提示されている場合は、その資料を熟読しておくこと（約30分）。 ・毎回の授業で自身が発見した課題点に対し取り組んだ記録を残し授業内で共有するための準備（約30分）。 ・予習・復習を通して出てきた疑問点や講師への質問などを適宜記録すること（約10分～20分）。
必携書（教科書販売） 使用しない
必携書・参考書（教科書販売以外） <参考資料> ・授業でプリントを配布する
オフィスアワー 質問は必要に応じて、電子メールで受け付ける
連絡先 s8268@m.ndsu.ac.jp
留意事項 ・本授業では、学生たちで授業を作り上げていく意識をもってほしい。発表の場への貢献を大いに望むが、上手に流ちょうに発表することを評価するわけではない。 ・マナバ、Nサポからの発信を見逃さないように気を付けること ・授業での説明のほか、疑問点不明点は遠慮せずに尋ねること。 ・定員は60名とする。

共生と文化を考える				単位数	2単位
授業コード	12896	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第2期
担当者氏名	岡田 紅理子				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
<p>人間は、世界のどこにいても同じように考え、暮らしているわけではない。また社会は、背景、信条・価値観、属性などが異なる多様な個人で構成されている。グローバル化に伴う人の移動が加速する昨今、自己・自集団と他者・他集団とのあいだにある「違い」や「違和感」とどう向き合いながら共生していくのかが急速に模索されている。そのひとつの糸口となりうるのが、文化人類学的な思考である。</p> <p>本科目では、世界各地のさまざまな環境に生きる人々が、自分達や自分たち以外の物事とどのように向き合い、社会生活を営んでいるのかを多様な側面から探究する文化人類学の基礎的な考え方やものの見方を学んでいく。そして、人類と文化の多様性と普遍性、豊かさと可能性を考えていく。</p>					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	国内外の多様なニュース、新聞記事、文献等の情報に接し、身の回りの物事を複数の視点から多角的に思考できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	自分にとっての「当たり前」、「常識」、「普通」を批判的に考察できる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	自己・自文化と他者・他文化の相違にとどまらず、その共通性や関連性を見出し、論理的かつ具体的に説明できる。			思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み態度 10%			1/2/3	
2	リアクションペーパー 30%			2/3	
3	中間レポート 30%			1/2/3	
4	期末レポート 30%			1/2/3	
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 団ントロダクション 2. 凶化とは 3. 凶化人類学のあゆみ 4. 他者・他文化と出会う 5. ロードワークと民族誌 6. 「民族」と「人種」 7. 経済・生業と贈与・交換 8. 「性」とは 9. 家族のかたち 10. 宗教、呪術、科学 11. 通過儀礼 12. 生、死、「病氣」 13. モノの扱われ方 14. 食文化 15. まとめ 					

定期試験 レポート
試験のフィードバックの方法 メールでの質問を受け付ける。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 （予習）講義で扱う内容に関連するニュース、新聞記事、文献を検索し、読む（1時間）。 （復習）講義内容を確認、整理するとともに、紹介された参考資料を読む（1時間）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） <参考書> インゴルド、ティム『人類学とは何か：他者と“ともに”学ぶこと』奥野克巳・宮崎幸子（訳）、亜紀書房、2021 佐藤望ほか『アカデミックスキルズ 大学生のための知的技法入門（第3版）』慶應義塾大学出版会、2020 松村圭一郎『はみだしの人類学：ともに生きる方法』NHK出版、2020
オフィスアワー 水曜3限あるいはアポイントメント
連絡先 okada@m.ndsu.ac.jp
留意事項 ・定員を50人とする。 ・manaba folioを利用するので、各自必ずリマインダ登録しておくこと。 ・履修者数や履修者の理解度等に応じて、授業形式やスケジュールに変更が生じる可能性がある。 ・座学を中心とした科目ではあるが、高校までのような体系的知識の伝授を目指す科目ではない。そのため、受動的に授業に臨むのではなく、学習内容について主体的に調べ、自分にとっての「当たり前」や「普通」に固執せず、多様な観点から考えようとする姿勢が求められる。

自立力育成ゼミ [a]					【単位数】	2単位
授業コード	12931	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第1期	
担当者氏名	Christopher Creighton					
時間割備考						
授業形態(主)	2 演習					
授業形態(副)						
担当形態	単独					
研究分野(大学院)						
本授業の概要						
This course will review key concepts in "Western Civilization" at a level typical of a seminar class typical of a North American university. The key concepts will be drawn from all disciplines and feature topics based on history, philosophy, science, engineering, education, sociology, and art selected from the 3,000 year span during which the "West" has emerged as an idea. Additionally, students will be asked to consider the sustainability of the "West" in light of the multiple environmental, economic, and social challenges that have emerged. Topics will be linked through the United Nations Sustainable Development Goals 2030 (SDG). Specific attention will be drawn to the activities of the Sisters of Notre Dame and their efforts throughout the world to bring justice and equality to the victims of the "West". Students will work outside of class time to establish, maintain, and develop connections with their peers at other institutions in the worldwide Notre Dame network.						
アクティブラーニングの実施内容						
到達目標					対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	Infer an author's intention.				知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	Understand and integrate conflicting opinions.				知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	Offer their opinions and be able to support them with evidence during discussion.				知識・技能/思考・判断・表現力	
4	Consolidate their understanding through logical, evidence-based essays.				知識・技能/思考・判断・表現力	
5	Link the study topic with broader issues.				知識・技能/思考・判断・表現力	
成績評価の基準					対応する到達目標の番号	
1	5 written summaries: 20%				1/2/4/5	
2	5 recordings: 20%				1/2/5	
3	Participation: 40%				2/3/5	
4	Project: 20%				2/3/5	
5						
実務経験のある教員による授業科目			実務あり			
実務経験の授業への活用方法						
The instructor has language teaching experience in a wide variety of settings including Japan's public high school and elementary school system. This experience can and will be shared while teaching the course.						
日本語以外の言語による授業			English			
授業予定一覧						
1. Geography: Mapping our lives 2. Geography: Mapping our lives 3. Geography: Mapping our lives 4. Archaeology: Our Ancestors - Where, What, and Whom were they? 5. Archaeology: Our Ancestors - Where, What, and Whom were they? 6. Archaeology: Our Ancestors - Where, What, and Whom were they? 7. Philosophy: Decision making 8. Philosophy: Decision making 9. Philosophy: Decision making 10. Architecture: Tradition and Metaphor 11. Architecture: Tradition and Metaphor 12. Architecture: Tradition and Metaphor 13. Innovation: What is it and How does it happen? 14. Innovation: What is it and How does it happen? 15. Innovation: What is it and How does it happen?						

<p>定期試験</p> <p>The final exam is an in-class essay on the themes of the course.</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p> <p>Feedback will be provided after each assignment.</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</p> <p>Materials will be provided by the instructor.</p>
<p>必携書（教科書販売）</p> <p>Materials will be provided by the instructor.</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外）</p> <p>N/A</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>Wednesdays: 13:00-14:30 Location: 713L Video conferencing is available on request.</p>
<p>連絡先</p> <p>c. j. creighton@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項</p> <p>This is an ENGLISH only course however it is open to students from any department who are willing to make an effort and communicate. Students need to demonstrate perseverance, adaptability, and determination in what is intended to be a new learning experience.</p>

自立力育成ゼミI [b]					【単位数】	2単位
授業コード	12932	科目ナンバリング	16070-1234-o2	開講年度学期	2023年度第2期	
担当者氏名	Christopher Creighton					
時間割備考						
授業形態(主)	2 演習					
授業形態(副)						
担当形態	単独					
研究分野(大学院)						
本授業の概要						
This course will review key concepts in "Western Civilization" at a level typical of a seminar class typical of a North American university. The key concepts will be drawn from all disciplines and feature topics based on history, philosophy, science, engineering, education, sociology, and art selected from the 3,000 year span during which the "West" has emerged as an idea. Additionally, students will be asked to consider the sustainability of the "West" in light of the multiple environmental, economic, and social challenges that have emerged. Topics will be linked through the United Nations Sustainable Development Goals 2030 (SDG). Specific attention will be drawn to the activities of the Sisters of Notre Dame and their efforts throughout the world to bring justice and equality to the victims of the "West". Students will work outside of class time to establish, maintain, and develop connections with their peers at other institutions in the worldwide Notre Dame network.						
アクティブラーニングの実施内容						
到達目標					対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	Infer an author's intention.				知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	Understand and integrate conflicting opinions.				知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	Offer their opinions and be able to support them with evidence during discussion.				知識・技能/思考・判断・表現力	
4	Consolidate their understanding through logical, evidence-based essays.				知識・技能/思考・判断・表現力	
5	Link the study topic with broader issues.				知識・技能/思考・判断・表現力	
成績評価の基準					対応する到達目標の番号	
1	5 written summaries: 20%				1/2/4/5	
2	5 recordings: 20%				1/2/5	
3	Participation: 40%				2/3/5	
4	Project: 20%				2/3/5	
5						
実務経験のある教員による授業科目			実務あり			
実務経験の授業への活用方法						
The instructor has language teaching experience in a wide variety of settings including Japan's public high school and elementary school system. This experience can and will be shared while teaching the course.						
日本語以外の言語による授業			English			
授業予定一覧						
1. Philosophy: The limits of knowing 2. Philosophy: The limits of knowing 3. Philosophy: The limits of knowing 4. History: The Vikings 5. History: The Vikings 6. History: The Vikings 7. Biology: Mass Extinctions 8. Biology: Mass Extinctions 9. Biology: Mass Extinctions 10. Medicine: Progress and Ethics 11. Medicine: Progress and Ethics 12. Medicine: Progress and Ethics 13. Economics: Containerization and the Global World 14. Economics: Containerization and the Global World 15. Economics: Containerization and the Global World						

<p>定期試験</p> <p>The final exam is an in-class essay on the themes of the course.</p>
<p>試験のフィードバックの方法</p> <p>Feedback will be provided after each assignment.</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間</p> <p>Materials will be provided by the instructor.</p>
<p>必携書（教科書販売）</p> <p>Materials will be provided by the instructor.</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外）</p> <p>N/A</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>Wednesdays: 13:00-14:30 Location: 713L Video conferencing is available on request.</p>
<p>連絡先</p> <p>c. j. creighton@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項</p> <p>This is an ENGLISH only course however it is open to students from any department who are willing to make an effort and communicate. Students need to demonstrate perseverance, adaptability, and determination in what is intended to be a new learning experience.</p>

自立力育成ゼミII				【単位数】	2単位
授業コード	12936	科目ナンバリング	160Z0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第1期、2023年度第2期
担当者氏名	Christopher Creighton				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
本演習では、本学での事前学習を経てCatholic University of Korea が主催するKorea 語研修に参加する。Korean の授業やその他の社会・文化的活動を通して Korean力の向上・習得を図り、日本の文化を伝える力を養うとともに、Koreaの文化・習慣や伝統についても理解を深める。現地での直接体験を通じてその国の生きた言葉を学んでいく。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)	
1	Korean 研修のための事前研修を通して、留学に向けての準備を十分に整えることができる。			知識・技能	
2	現地の学習及び生活において様々な事柄に積極的、主体的に取りこむことにより、日常レベルで支障なくコミュニケーションを取ることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	留学経験で得られたことを客観的に見つめ、自身の経験を今後の留学等にどのように生かせるかを建設的に考えることができる。			主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	事前学習での取り込み：20%			1	
2	韓国語研修の取り込み：70%			2	
3	最終レポート：10%			2/4/5	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業				English-日本語	
授業予定一覧					
1. 韓国:日常生活 2. 韓国:日常生活 3. 韓国:日常生活 4. 韓国人:友達になる? 5. 韓国人:友達になる? 6. 韓国人:友達になる? 7. 韓国と日本:貴方は何が出来る? 8. 韓国と日本:貴方は何が出来る? 9. 韓国と日本:貴方は何が出来る? 10. 韓国と日本の歴史:責任は? 11. 韓国と日本の歴史:責任は? 12. 韓国と日本の歴史:責任は? 13. 留学の間:健康 14. 留学の間:健康 15. 留学の間:健康					

定期試験 レポート
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
オフィスアワー 水曜日：13:00-14:30 713L Video conferencing 可能。
連絡先 c. j. creighton@m.ndsu.ac.jp
留意事項 第1期の事前学習一研修にすべて出席すること。事前学習に参加出来ない者は、夏休みに行われる韓国語の研修に参加できません。なお、登録後キャンセルは、キャンセル料がかかるので注意すること。海外語学研修が目的であるから、軽い気持ちでの参加は控える。自分が何のために参加し、研修にはどうなっていることを目的とするのが等を熱意した上での参加を望む。

自立力育成ゼミIII				単位数	2単位
授業コード	12940	科目ナンバリング	160Z0-2340-o2	開講年度学期	2023年度第2期
担当者氏名	小林 修典				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
<p>この授業のテーマは、「英語論文の読解と要約」である。英語で書かれた論文を正確に理解し、その内容を日本語で、批評的に要約できる能力を育むことを目指す。英語そのものの学習を目的とするのではなく、英語を情報収集のツール(道具)として使いこなす技術を見がくことを目的としている。前提となるべき語彙力を増強し、論文特有の表現方法の理解も深める。また、統計資料や図表にも注目する。このような技能を、実践的な練習を繰り返すことで身につけていく。大学院進学や留学の準備としての役割も果たす。</p>					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	正確に論文を読むことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	読み取った論文の内容を日本語で批評的に要約することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	論文読解に必要な語彙力を増強する。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	課題レポート 50%			1/2/3	
2	期末レポート 50%			1/2/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 インTRODクシヨN 2 論文の構成と表現 読解の方法 ① 3 論文の構成と表現 読解の方法 ② 4 実践練習 ① 心理学 5 実践練習 ② 社会学 6 実践練習 ③ 児童福祉 7 実践練習 ④ 国際関係 8 学生による読解・要約のデモンストレーション ① 指定課題 9 学生による読解・要約のデモンストレーション ② 指定課題 10 実践練習 ⑤ 人間生活 11 実践練習 ⑥ 女性学 12 実践練習 ⑦ 文化比較 13 実践練習 ⑧ 経済学 14 学生による読解・要約のデモンストレーション ① 自由課題 15 学生による読解・要約のデモンストレーション ② 自由課題					
注 実践練習で扱う論文の分野は暫定的である。					

<p>定期試験 期末レポートを期末試験期間中に提出する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法 レポート提出後に講評する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 ・予習として課題に取り組む。次回の教材となる論文を読んでおく。語彙力テストに備える。（60～90分） ・復習として、論文の要約を行う。（60分）</p>
<p>必携書（教科書販売）</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外） 必要に応じて指示する。また、授業中に印刷物を配布する。</p>
<p>オフィスアワー 授業時に指示する。</p>
<p>連絡先 shusuke@post.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> この授業で扱う論文は、主として社会科学の分野の学術的な論文である。文学作品を分析する論文や、随筆などの文学的文章は対象としない。アメリカなど英語文化圏の大学の「教養課程」で教科書や教材として使われるレベルの学術的な論文を扱う。 「概要」にもあるように、この授業では、英語そのものの学習を目的とするのではなく、英語を学問研究のために活用する技術の習得を目的としている。同時に、内容を把握し、自分のことばで説明できるような日本語の表現力も強化していく。 論文の内容理解には、論文でよく使われる言葉の理解が欠かせない。語彙力を増強するために、毎回、授業のウォーミングアップとして、10語を文章の中で使いこなすためのテストを行う。（この授業を通じて、少なくとも100語の語彙増強がはかられることになる。） この授業の定員は10名とする。「N抽選」により履修可能者を決定する。

自立力育成ゼミⅣ				【単位数	2単位
授業コード	12946	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第2期
担当者氏名	小林 謙一				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)	1 講義				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
<p>本授業は、「食べることは生きること」をキーワードとして、「食」を生物学的、社会的、心理的、現代社会的な側面から、理解と思考を深める。また、「食」の問題と「情報」の問題の類似点を探り、その「解決点」を模索する。これらの考え方にに基づき、自ら課題を設定し、その課題に対して、情報を適切に収集・選択・整理し、プレゼンテーションやグループディスカッションを行う。その中で、集団の中で自らの意見を適切に表現できるようにする。</p>					
アクティブラーニングの実施内容		ディベート			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	・「食」について、様々な観点から思考ができるようになる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	・「食」やそれを取り巻く「社会」に対して、適切な「問題意識」をもち、それに基づく「課題」設定能力を身につけることができる。			思考・判断・表現力/主体性	
3	・「課題」に取り組むための情報を適切に収集・選択したうえで、その情報を批判的に読み取る能力を身につけることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	・これらの「課題」をグループ内で発表し、議論・討論することで、集団の中で自らの意見を表現できるようになるとともに、多くの意見を集約し整理できる能力を身につけることができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み度 30%			1/2/3/4	
2	課題 30%			1/2/3/4	
3	レポート 40%			1/2/3/4	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション・・・本ゼミについての内容を理解できるようにする 「食」とはなにか?・・・「食」の本質について説明できるようにする 「食」を生物学的に考える・・・「食」について生物学的な側面から説明できるようにする 「食」を栄養学的に考える・・・「食」について栄養学的な側面から説明できるようにする 「食」を心理的に考える・・・「食」について心理学的な側面から説明できるようにする 「食」を歴史的に考える・・・「食」について歴史的な側面から説明できるようにする 「食」を文化的に考える・・・「食」について文化的な側面から説明できるようにする 総合討論 (1) 「食べる」ことの意味について・・・「食べる」ことの意味について多面的に議論できるようになる 現代の「食」とメタボローム症候群・・・現代の「食」の問題をメタボローム症候群という側面から説明できるようにする 現代の「食」と「情報」・・・現代の「食」と「情報」との密接な関係性について説明できるようにする 「食」とメタボと「情報」のメタボ・・・「食」と「情報」の概念的共通性について説明できるようにする 現代の「食」と「疲労」・・・現代の「食」と「疲労」との密接な関係性について説明できるようにする 現代の「食」と「こころ」・・・現代の「食」と「こころ」との密接な関係性について説明できるようにする 総合討論・・・「食」の今日的な課題と未来への提言に向けた議論ができるようになる まとめ・・・このゼミにおける内容を総括して、自身の振り返りができるようにする 					

定期試験 課題に対するプレゼンテーションとレポート
試験のフィードバックの方法 講義中やmanabaなどを通して、結果と講評を行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 30分程度。毎回の授業で、その日の内容に関して参考図書およびURLを紹介する。その内容をあらかじめ読んでおくこと。レポート課題では、それらの参考文献や授業の内容を整理したうえで、テーマに関してより多角的に、発展的な論述を作成してほしい。また、総合討論はグループによる発表を予定しているので、発表の準備などを協力して行なってほしい。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） <参考書等> 授業で指示する
オフィスアワー 月曜日4限
連絡先 k4kobaya@post.ndsu.ac.jp
留意事項 ・毎回の課題があり、準備が必要である

自立力育成ゼミV [a]					単位数	2単位
授業コード	12951	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第1期	
担当者氏名	Thomas Fast					
時間割備考						
授業形態(主)	2 演習					
授業形態(副)	1 講義					
担当形態	単独					
研究分野(大学院)						
本授業の概要						
Students will learn about global citizenship and global issues via the Model United Nations while preparing for and during the Japan University English Model UN (JUEMUN) Conference. Students will learn to role-play delegates from different UN nations. They will learn about the roles of the UN in global affairs. They will research a global issue and how it affects the people of their assigned country, and the rest of the world. Delegates will gather in a UN committee to discuss the issue as assigned by JUEMUN and propose solutions in the form of draft resolutions. At the conference students will discuss these matters and negotiate with other delegates. Support will be given to the students to develop their negotiation and debating skills.						
アクティブラーニングの実施内容		発見学習				
到達目標					対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	Students can demonstrate an understanding of the relevant global issue and the UN				知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	Students can demonstrate in-depth knowledge of other countries				知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	Students can demonstrate critical and creative thinking skills				知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	Students can demonstrate a development in their oral communication and negotiation skills through debate, discussion and collaboration				知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5	Students can demonstrate research and academic writing skills				知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
成績評価の基準					対応する到達目標の番号	
1	Country/Issue Presentation 20%				1/2/3	
2	Position Paper 30%				1/2/3/5	
3	Formal Speech 20%				1/2/3/4/5	
4	Participation 30%				3/4	
5						
実務経験のある教員による授業科目		No				
実務経験の授業への活用方法						
日本語以外の言語による授業		English				
授業予定一覧						
Week 1: Orientation Week 2: The United Nations Week 3: Researching the assigned topic Week 4: Researching the assigned topic Week 5: Country/Issue Presentations Week 6: Caucusing and Position Paper Writing Week 7: Position Paper Writing I Week 8: Position Paper Writing II Week 9: Resolutions and Amendments I Week 10: Resolutions and Amendments II Week 11: Debate and Negotiation Skills I Week 12: Debate and Negotiation Skills II Week 13: Formal and Informal Debate I Week 14: Formal and Informal Debate II Week 15: Informal Debate and Caucusing Strategies						

定期試験
Week 16: Final Position Papers due
試験のフィードバックの方法
Feedback will be given at the end of each assignment and on week 16
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
For each lesson students will be expected to do a vast amount of homework and be ready to discuss, debate, negotiate and collaborate in discussions. In addition, students will be required to attend at least one Model UN conference.
必携書（教科書販売）
No textbook
必携書・参考書（教科書販売以外）
Materials will be provided by the instructor
オフィスアワー
Office hours will be announced at the first lesson. Students may also arrange appointments by email.
連絡先
fast@m.ndsu.ac.jp
留意事項

自立力育成ゼミV [b]				【単位数】	2単位
授業コード	12952	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第2期
担当者氏名	Thomas Fast				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)	1 講義				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
Students will learn about global citizenship and global issues via the Model United Nations while preparing for and during the Japan University English Model UN (JUEMUN) Conference. Students will learn to role-play delegates from different UN nations. They will learn about the roles of the UN in global affairs. They will research a global issue and how it affects the people of their assigned country, and the rest of the world. Delegates will gather in a UN committee to discuss the issue as assigned by JUEMUN and propose solutions in the form of draft resolutions. At the conference students will discuss these matters and negotiate with other delegates. Support will be given to the students to develop their negotiation and debating skills.					
アクティブラーニングの実施内容		発見学習			
到達目標					対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)
1	Students can demonstrate an understanding of the relevant global issue and the UN				知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
2	Students can demonstrate in-depth knowledge of other countries				知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
3	Students can demonstrate critical and creative thinking skills				知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
4	Students can demonstrate a development in their oral communication and negotiation skills through debate, discussion and collaboration				知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
5	Students can demonstrate research and academic writing skills				知識・技能/思考・判断・表現力/主体性
成績評価の基準					対応する到達目標の番号
1	Country/Issue Presentation 20%				1/2/3
2	Position Paper 30%				1/2/3/5
3	Formal Speech 20%				1/2/3/4/5
4	Participation 30%				3/4
5					
実務経験のある教員による授業科目		No			
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業		English			
授業予定一覧					
Week 1: Orientation Week 2: The United Nations Week 3: Researching the assigned topic Week 4: Researching the assigned topic Week 5: Country/Issue Presentations Week 6: Caucusing and Position Paper Writing Week 7: Position Paper Writing I Week 8: Position Paper Writing II Week 9: Resolutions and Amendments I Week 10: Resolutions and Amendments II Week 11: Debate and Negotiation Skills I Week 12: Debate and Negotiation Skills II Week 13: Formal and Informal Debate I Week 14: Formal and Informal Debate II Week 15: Informal Debate and Caucusing Strategies					

定期試験
Week 16: Final Position Papers due
試験のフィードバックの方法
Feedback will be given at the end of each assignment and on week 16
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
For each lesson students will be expected to do a vast amount of homework and be ready to discuss, debate, negotiate and collaborate in discussions. In addition, students will be required to attend at least one Model UN conference.
必携書（教科書販売）
No textbook
必携書・参考書（教科書販売以外）
Materials will be provided by the instructor
オフィスアワー
Office hours will be announced at the first lesson. Students may also arrange appointments by email.
連絡先
fast@m.ndsu.ac.jp
留意事項

自立力育成ゼミVI				単位数	2単位
授業コード	12955	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第2期
担当者氏名	村中 李衣、高橋 昌子、Bae Junsub				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)	1 講義				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
近くて遠い国と言われる韓国の「近さ」と「遠さ」を「わたし」という窓を通して理解していく。韓国大学生との異文化交流を念頭に、毎回簡単な読む・聴く・話すトレーニングを取り入れながら、自分なりの問題意識を高めていく。現地学生と交流後は、自分の目と肌で感じた韓国を伝え合い、今後あるべき日韓の関係づくりの提案を行う。					
アクティブラーニングの実施内容		体験学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	1、マスメディアやインターネットによって流される情報を単純に受け入れるのではなく、事実に基づいて正しく判断できる。			思考・判断・表現力	
2	2、自分独自の視点をもって日本以外の国の人々との関係づくりの手掛かりを持つ。			主体性	
3	3、現地学生との交流の手掛かりとなる簡単な韓国語会話ができるようになる			知識・技能	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	期末レポート：60%			1/2	
2	ディスカッションへの参加度：40%			2/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
BaeJunsubは、内閣府主催の国家間青年親善交流事業における同行通訳及び招聘通訳の経験を活かし学生の初歩韓国語会話能力の習得(到達目標3)の達成を援助する。また、日韓連絡会議の実行委員および神戸市嘱託職員として日韓文化交流事業に携わっている経験を活かし、学生がそれぞれの課題を設定し学生に韓国の理解を進めるための手がかりを提供できる。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 オリエンテーション・日本における韓国イメージの変遷 2 ハングル文字の読み方・書き方1、韓国の歴史と社会1 3 ハングル文字の読み方・書き方2、韓国の歴史と社会2 4 韓国語会話1・日韓関係1 5 韓国語会話2・日韓関係2 6 韓国語会話3・韓流と韓国1 7 韓国語会話4・韓流と韓国2 8 韓国語会話5・韓国の文化1 9 韓国語会話6・韓国の文化2 10 韓国語会話7・韓国の教育1 11 韓国語会話8・韓国の教育2 12 韓国語会話9・日本の中の韓国・韓国のなかの日本1(オンラインで韓国大学生との交流の可能性もあり) 13 韓国語会話10・日本の中の韓国・韓国のなかの日本2(オンラインで韓国大学生との交流の可能性もあり) 14 韓国語会話11・日韓共通の課題とその解決策の模索 15 学びの振り返り：わたしの中の「世界」はどう変わったか?					

<p>定期試験 期末レポートに関しては15回目の授業の中で案内する。</p>
<p>試験のフィードバックの方法 レポートにコメントし返却する。</p>
<p>準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 事前学習として授業中に配布した練習プリントおよび課題を次回授業までにすませておく。（1時間） 事後学習として模範解答に従って、プリントの間違い部分のおさらいをする。（1時間）</p>
<p>必携書（教科書販売） なし</p>
<p>必携書・参考書（教科書販売以外） <必携書> 適宜、授業中に指示する。 <参考書等> 必要に応じて、印刷物を配布する。</p>
<p>オフィスアワー 授業終了後に教室で質問を受け付ける</p>
<p>連絡先 s8323@m.ndsu.ac.jp muranaka@m.ndsu.ac.jp m-takahashi@m.ndsu.ac.jp</p>
<p>留意事項 本授業は、はじめて韓国語を学習する学習者を対象とするものである。 他大学との交流を考慮し、定員を12名とする。 「N先着」により受講可能者を決定する。</p>

自立力育成ゼミVII				単位数	2単位
授業コード	12961	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	岡田 紅理子				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
<p>全国には13の国立ハンセン病療養所があるが、岡山県は全国で唯一、2つの療養所をもつ自治体である。岡山県にある2つの療養所のうちのひとつである長島愛生園は、日本で最初に設置された国立療養所である。</p> <p>本科目では、90年にわたって続いた絶対隔離政策の歴史をたどりながら、今日もお続くハンセン病回復者（ハンセン病の病歴者・元患者、療養所の入所者・元入所者）とその家族が経験してきたさまざまな人生被害の実際を学ぶ。そして、被害に対するかれらと支援者らによる闘いへの想いをみつめ、ハンセン病問題が今日を生きたわたしたちになにを問いかけているのかを考察していく。あわせて、近年頻りに聞かれるようになった「人権」や人間の「尊厳」とはなんであるのかを考えたい。</p>					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)	
1	ハンセン病の病理学的特徴に偏ることなく、回復者とその家族が経験した偏見差別の実態を論理的かつ具体的に説明することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
2	自分とは異なる他者が置かれた状況について、他者の立場を踏まえて考察することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	ハンセン病問題や他の偏見差別問題に自分との関連性を見出すことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業の取り組み態度 20%			1/2/3	
2	リアクションペーパー 40%			1/2/3	
3	レポート 40%			1/2/3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目				実務あり	
実務経験の授業への活用方法					
ハンセン病問題に関する市民活動に携わるなかで得た経験・示唆・人的ネットワークを活かし、日常生活のなかでハンセン病問題に関わることは決して特別なことではないこと、またハンセン病問題が自分とは決して無関係ではないことを示したい。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. ハンセン病という疾病と患者たち 3. 「国辱」論と強制隔離 4. 海を越えた日本のハンセン病政策 5. 立ち上がった入所者たち 6. ハンセン病国賠訴訟原告たちの訴え 7. 「人間回復」を目指して 8. 旧植民地からの訴え 9. 医師・僧侶 小笠原登からの問いかけ 10. 立ち上がった家族たち 11. ハンセン病家族訴訟原告たちの訴え 12. ハンセン病問題とわたし：医療従事者からの問いかけ（学外講師） 13. ハンセン病問題とわたし：教育者からの問いかけ（学外講師） 14. ハンセン病問題とわたし：法律家からの問いかけ（学外講師） 15. ハンセン病問題とわたし：宗教者からの問いかけ（学外講師） 					

定期試験 レポート
試験のフィードバックの方法 メールでの質問を受け付ける。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 （予習）講義・レジュメで紹介された書籍を読む（60分）。 （復習）講義内容を確認、整理するとともに、自分が考えたことをメモに残す（30分）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） <参考書> 黒坂愛衣『ハンセン病家族たちの物語』世織書房、2019 佐藤望ほか『アカデミックスキルズ 大学生のための知的技法入門（第3版）』慶應義塾大学出版会、2020 山陽新聞社編『語り継ぐハンセン病：瀬戸内3園から』山陽新聞社、2015 ハンセン病市民学会教育部会編『ハンセン病問題から学び、伝える：差別のない社会をつくる人権学習』清水書院、2022
オフィスアワー 水曜3限あるいはアポイントメント
連絡先 okada@m.ndsu.ac.jp
留意事項 ・受講者を上限30人とする。現代社会におけるマイノリティ、偏見差別、人権の問題に関心がある学生の履修を歓迎する。 ・manaba folioを利用するので、各自必ずリマインダ登録しておくこと。 ・高校までのような体系的知識の伝授を目指す科目ではないため、受動的に授業に臨むのではなく、学習内容について主体的に調べ、考え、言語化する姿勢が求められる。 ・ゲストスピーカーのご都合や履修者の理解度・関心度の状況などにより、授業スケジュールに変更が生じる可能性がある。 ・実際に長島愛生園もしくは邑久光明園への見学を企画したい。見学は土曜日に実施される可能性が高く、公共交通機関を利用した現地までの往復運賃が自己負担となる。また、参加者と非参加者では、課題について異なる対応をとる。 ・授業は、視聴覚教材（ドキュメンタリー、講演会映像等）を多用しながら進められる。

自立力育成ゼミVIII				単位数	2単位
授業コード	12971	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第2期
担当者氏名	日下 紀子				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)	1 講義				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
<p>社会の中で生きていくうえで、人は、自分の思いを他者に伝え、他者の思いを理解するというコミュニケーションを必要とします。より良いコミュニケーションと人間関係のためには、自分が何を感じ、何を思い、何を伝えたいのか、また相手は何を感じ、何を思い、何を伝えようとしているのか、自他の心について理解することが求められます。</p> <p>「大切なことは、目に見えないんだよ」と星の王子さまは言いました。心で探さないと見えないもの、心でしか見えないもの、心とは何かについて理解を深めるため、現代社会の心に関する資料や情報、文献を各自適切に選択し、話題提供を行います。それに基づいて少人数のグループで自由に討論することを通して、各自が感じ、考えることを適切に表現できるように取り組んでいきます。</p>					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)	
1	心の働きに対する基礎的な理解力を身につけ、多面的に説明することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	自他の心への関心を具体的に持ち、心を理解するための心的構えを身につけ、主体的に他者とコミュニケーションを図ることができる。			思考・判断・表現力/主体性	
3	現代社会を生きる「心」に関して、問題意識をもつことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4	自分の意見を適切に表現、主張することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への主体的な取り組み・リアクションシート 30%			1/2/3/4	
2	課題(発表)中間レポート(800字程度 3回) 30%			1/2/3/4	
3	期末課題レポート 40%			1/2/3/4	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
臨床心理士・公認心理師として心理臨床業務に携わっている経験より、現代社会における心に関する問題について臨的にとりあげ、多面的、多角的、多層的な理解をすすめる。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・「心」とは何か 2. 無意識の発見と心の成り立ち 3. 心の発達と性格・パーソナリティについて 4. セクシャリティ(sexuality)について 5. ディスカッション① 6. 夢の働き 7. 不安とは 8. 感情(怒り)のコントロール 9. 日常生活と心の健康(あるいは特別講師による講義を予定) 10. ディスカッション② 11. 集団と対人関係における心理 12. 人とのかかわり方 13. 自分の気持ちを伝える:アサーション 14. ディスカッション③ 15. 総合討論・まとめ 					

定期試験 課題レポート
試験のフィードバックの方法 授業中に振り返りを行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 （予習） 毎日のニュースや新聞記事などにも主体的、積極的に関心を持ち、各テーマに関する話題提供ができるように、文献にもあたるなどの準備をして授業に臨むようにしてください。（各1時間 総計15時間以上） （復習） 授業で体験したことは、各自、主体的に言語化するように努め、問題意識をもってさらに文献などを読み、理解を深めること。（各1時間 総計15時間以上）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） <参考書等> 適宜授業中に紹介し、プリント等を授業中に配布する。
オフィスアワー オフィスアワーは、金4限目。
連絡先 noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp
留意事項 1. 主体的に授業に参加し、演習、討論では、積極的に自分の意見を述べることを求める。 2. manaba folio を利用する予定であるので、各自リマインダー登録しておくこと。 3. レポートは、課題レポートを含めて4回（800字程度3回、2000字程度1回）提出予定。 4. 毎回の授業では事前学習をもとにグループディスカッションを行うので、必ず事前学習をして臨むこと。 5. 外部講師による特別講義「自分たちに求められる被害者支援とは～誰かの笑顔に繋がる私の勇気～」を今年度も企画予定である。その際にはシラバスの順が変更になる可能性あり。

ボランティア実践III				単位数	2単位
授業コード	18100	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第2期
担当者氏名	濱崎 絵梨				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	3 実験・実習・実技				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
ボランティア活動について、概念、社会的意義、活動上の注意など、基本的な事柄を学びます。福祉、教育、環境を中心としたボランティア活動の実践者やコーディネーターから多様なボランティア活動について学びます。そのうえで、自らが関心のあるボランティア活動に参加します。実践を通じてボランティア活動の意義を体験的に学び実践力を身につけます。体験からの学びを他のメンバーと共有するとともに、地域社会の課題に対する理解を深め視野を広げます。					
アクティブラーニングの実施内容		体験学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	ボランティア活動の概念、社会的意義、活動上の注意などを説明することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	地域社会において主体的にボランティア活動を実践することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	体験からの学びを他のメンバーと共有し、地域社会とボランティア活動について多角的に考察して記述することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み 20%			1/3	
2	ボランティア活動への積極的参加と協働 50%			1/2/3	
3	期末レポート 30%			3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 オリエンテーション、ボランティア基礎講座 2 ボランティア活動の紹介(特別講義) 3 ボランティア活動の紹介(特別講義) 4 ボランティア活動の選択と計画 ※ボランティア活動の紹介等をふまえて5日間程度の活動を計画する ※独自のボランティア活動に参加しても良いが、その場合は必ず担当教員に相談すること 5~13 ボランティア活動 14 実践の振り返りと学びの共有 15 まとめ					

定期試験 期末レポート
試験のフィードバックの方法 manaba folioからレポートをふまえた全体統括を掲載する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 （予習）ボランティア活動への準備学習（1時間程度） （復習）ボランティア活動記録の作成（1時間程度）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 〈参考書等〉 必要に応じて資料を配布する。
オフィスアワー 質問等は随時、電子メールで受け付ける。 オフィスアワーは授業中に伝える。
連絡先 hamasaki@m.ndsu.ac.jp
留意事項

ボランティア実践B				単位数	2単位
授業コード	18102	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第2期
担当者氏名	濱崎 絵梨				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)	3 実験・実習・実技				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
ボランティア活動について、概念、社会的意義、活動上の注意など、基本的な事柄を学びます。福祉、教育、環境を中心としたボランティア活動の実践者やコーディネーターから多様なボランティア活動について学びます。そのうえで、自らが関心のあるボランティア活動に参加します。実践を通じてボランティア活動の意義を体験的に学び実践力を身につけます。体験からの学びを他のメンバーと共有するとともに、地域社会の課題に対する理解を深め視野を広げます。					
アクティブラーニングの実施内容		体験学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	ボランティア活動の概念、社会的意義、活動上の注意などを説明することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	地域社会において主体的にボランティア活動を実践することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
3	体験からの学びを他のメンバーと共有し、地域社会とボランティア活動について多角的に考察して記述することができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み 20%			1/3	
2	ボランティア活動への積極的参加と協働 50%			1/2/3	
3	期末レポート 30%			3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1 オリエンテーション、ボランティア基礎講座 2 ボランティア活動の紹介(特別講義) 3 ボランティア活動の紹介(特別講義) 4 ボランティア活動の選択と計画 ※ボランティア活動の紹介等をふまえて活動を選択する ※独自のボランティア活動に参加しても良いが、その場合は必ず担当教員に相談すること 5~13 ボランティア活動 14 実践の振り返りと学びの共有 15 まとめ					

定期試験 期末レポート
試験のフィードバックの方法 manaba folioからレポートをふまえた全体統括を掲載する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 （予習）ボランティア活動への準備学習（1時間程度） （復習）ボランティア活動記録の作成（1時間程度）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） 〈参考書等〉 必要に応じて資料を配布する。
オフィスアワー 質問等は随時、電子メールで受け付ける。 オフィスアワーは授業中に伝える。
連絡先 hamasaki@m.ndsu.ac.jp
留意事項

ディスカッションから社会を考える				単位数	2単位
授業コード	18600	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	濱西 栄司				
時間割備考					
授業形態(主)	1 講義				
授業形態(副)					
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
<p>【サブタイトル：国連SDGs入門―「行動の10年」のためのサステナビリティの学び】</p> <p>本科目は、国連大学SDG大学連携プラットフォーム（https://ias.unu.edu/jp/sdg-up）が開発した1・2年生向けの一般教養科目である。SDGs実践に先駆的に取り組む全国の大学が協力して授業を展開し、サステナビリティに関する広い知識を身につけるとともに、SDGsの社会的、経済的、環境的、ガバナンス的側面の有機的関連性を見る視座や自主的かつ協調的に考える力を養う。SDGsの歴史的背景と日本の現状を理解したうえで、SDGsがもつめる変化と行動について事例から学びつつ議論することを通して、サステナビリティについて自分事として捉えることができる姿勢を涵養する。</p> <p>※本科目は、本学が参加する「国連大学SDG大学連携プラットフォーム」（SDG-UP、32大学参加）のSDGsカリキュラム分科会（幹事は清心・ICU・関学）において構築された教養科目です。1・2年生の人向けにつくられていますので、どの学部・学科の人でも安心して受講できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回90分の授業は、45分ずつ前半と後半に分かれます。各大学が用意した動画等を事前に視聴したうえで、小グループでの意見交換をおこないます。楽しく学べますし、他学科の人とも交流ができる授業です。 ・15回は、国連大学による導入部分（第1・2回）に続いて、第3～14回は【開発・国際】【環境・持続】【経済・投資】【外国・共生】【ジェンダー・人権】【参画・変革】をテーマとする各2回の授業から構成されます―どちらかといえば前半は変化をもたらした事例、後半は理論的な内容から成ります。 ・全15回授業のファシリテートおよび第11回の講義は、濱西（地域連携・SDGs推進センター長／SDG-UP担当／現代社会学科）が行います。国連大学が学部向け授業に関わるのは初めてのことで、国内の大学がこれほど連携して構築する授業も日本初です。 					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性)	
1	SDGsの歴史的背景と各ゴールの理論的背景を理解し、説明できる。			知識・技能	
2	SDGsの進捗状況、及び日本と他国の多様な主体の取り組みについて評価体制や方法を理解し、説明できる。			知識・技能	
3	SDGsの求める変化や行動について先進的取り組み事例を通して、その駆動要因を考察できる。			思考・判断・表現力	
4	地球と社会のサステナビリティについて自分事として内化し、その行動指針を表現することができる。			主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	討論等のアクティブラーニングへの参加：20%			3/4	
2	アサインメント（事前の動画視聴など、授業への取り組み）：30%			1/2	
3	全体を振り返るエッセイ／ファイナル・レポート：50%			1/2/3/4	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1. 授業概要・イントロダクション 2. 共通の前提（UNU-IAS） 【開発・国際】 3. SDGsを考える―アフリカ地域と食料問題を中心に―（東京外国語大学） a. アフリカからSDGsを考える b. SDGs目標2と食料への権利～アフリカの事例を中心に 4. SDGsをめぐるグローバル・ガバナンス（国際基督教大学） a. 変わる多国間外交 【吉川元偉元国連大使】 b. SDGsとコーポレート・ガバナンス c. 持続可能な開発の第4の柱論争とガバナンス 【環境・持続】 5. SDGs13と14に関連する学術活動としての気候科学と海洋科学（北海道大学） a. 気候モデルってなに？ b. 北極域の海洋科学 6. SDGsの潮流とカーボンニュートラルの実践（東京都市大学） a. サステナビリティ概念の歴史の変遷 b. SDGsの本質 c. 気候変動による影響はいくらか d. サーキュラーエコノミーで実現する脱炭素社会 【経済・投資】 7. SDGsとESG投資（上智大学） a. SDGsとESG投資 b. 年金資金と社会課題解決 c. 気候変動問題等と機関投資家 d. 国連責任投資原則（PRI）とSDGs e. インパクト投資と社会的インパクトの評価 f. インベストメント・チェーンにおける各経済主体の効果的な協働 8. ヒトとヒト、ヒトとモノ、モノとモノのつながり（愛媛大学） a. SDGsのサプライチェーンとバリューチェーン b. LCAによる可視化のためのグループワーク c. LCAの振り返り 【外国・共生】 9. アジア（中国・韓国）と日本のSDGs活動を学ぶ（神奈川大学） a. アジアの近隣諸国（中国、韓国、台湾など）で進められているSDGs活動事例分析 b. 日本（横浜と神奈川大学の事例）のSDGs活動との共通点と相違点分析					

10. 日本における移民・外国人の受入れとSDGs（関西学院大学）
 - a. 日本に住む外国人の特徴と「ビジネスと人権」の新潮流
 - b. 外国人労働者の子弟の教育と医療の改善に向けて
- 【ジェンダー・人権】
11. 行動と変化から学ぶ—SDG5実践編（ノートルダム清心女子大学）
 - a. 身近な問題から
 - b. 各地の男女共同参画基本計画から
12. ジェンダー基礎論・組織を強くする評価「お茶大インデックス」から（お茶の水女子大学）
 - a. ジェンダー平等は17のゴールを横断する
 - b. ジェンダー・ダイバーシティと組織を強くする評価
- 【参画・変革】
13. 歴史文化遺産を通じたESD（奈良教育大学）
 - a. ESDの概要
 - b. 歴史文化遺産を通じたESDの実際
14. 持続可能な未来を創る～わたしたちのシティズンシップ（東海大学）
 - a. 持続可能な未来への変革を導くのは誰か～現代社会における市民とその力
 - b. 市民による社会参画の意義と方法
15. まとめ

定期試験

期末レポート

試験のフィードバックの方法

Google Classroomを用いて行う。

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）各回の事前に出される課題（動画視聴等）にとりくむこと（各回2-3時間程度）。

必携書（教科書販売）

必携書・参考書（教科書販売以外）

Google Classroomにおいて、各回授業の自学習用の動画や資料PDFを掲載する

オフィスアワー

メールによる質問、または金曜の12時30分～13時（臨時会議等で留守にする場合があるので事前にEメールで予約すること）。

オンライン（Zoom、Meet）での相談も可能。

連絡先

hamanishi@post.ndsu.ac.jp

留意事項

女性の自立を考える				単位数	2単位
授業コード	18700	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2023年度第1期
担当者氏名	二階堂 裕子				
時間割備考					
授業形態(主)	2 演習				
授業形態(副)	1 講義				
担当形態	単独				
研究分野(大学院)					
本授業の概要					
女性の社会的活動がますます求められる今日、持続可能なキャリアデザインについて主体的に学び、未来へと続く自らの生き方や働き方を選び取っていくことが必要となっている。そのため、本授業では、さまざまな研究領域の視点から仕事、生活、人間と社会の関わりなどについて多面的に学ぶ。そのうえで、仕事はもちろん、人生を豊かに過ごすために必要なこと、および女性の自立に向けた課題について検討する。また、各講義をふまえて、受講者がいくつかのグループに分かれ、女性の自立に関するテーマについて討論を行う。そこで明らかになったことを各グループで報告するほか、各自が本授業の成果としてレポートにまとめる。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー (1知識・技能/2思考・判断・表現力/3主体性)	
1	社会的・職業的自立に向けて、どのような能力や態度が求められるかを、広い視野から説明できる。			知識・技能/思考・判断・表現力	
2	自分らしい生き方とは何か、今後どのような力を養うべきかについて、主体的に考えることができる。			思考・判断・表現力/主体性	
3	物事を多面的に捉える力や論理的に思考する力を身につけ、学んだことを実践に移すことができる。			知識・技能/思考・判断・表現力/主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み態度：20%			1/2/3	
2	課題：20%			1/2/3	
3	レポート：60%			1/2/3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション：趣旨説明（二階堂裕子） 講義（公衆栄養学）：健康と食生活（焰硝岩政樹） 講義（食品学）：食と栄養（吉金優） 講義（高齢者福祉論）：つながりの地域で豊かに生きる（濱崎絵梨） グループ討論：第2回から4回の講義をふまえた討論（二階堂裕子） 講義（日本近代史）：女性と政治-歴史から考える（久野洋） 講義（広告論）：テレビCMと女性の表象をめぐる問題（葉口英子） 講義（臨床心理学）：女性性と男性性-精神分析の視点から（日下紀子） グループ討論：第6回から8回の講義をふまえた討論（二階堂裕子） 講義（児童文学）：児童文学作品に見る”女の子の生き方”（片平朋世） 講義（文化人類学）：移住先でのネットワーク形成と文化実践（岡田紅理子） 講義（中世文学）：和歌とジェンダー-恋歌のふるまい（江草弥由起） グループ討論：第10回から12回をふまえた討論（二階堂裕子） 講義（宗教社会学）：純真女子学園における原爆の語り（福田雄） 総合討論：第14回、および全体の講義をふまえた討論（二階堂裕子） 					

定期試験 1回目：日程は未定（第1回～5回の授業をふまえた考察） 2回目：日程は未定（第6～9の授業をふまえた考察） 3回目：日程は未定（第10～13回の授業をふまえた考察） 4回目：日程は未定（すべての授業をふまえた考察） ※1～3回目は600字程度、4回目は2,000字程度とする。 ※授業中に指定した期日までにmanaba folioにてレポートを提出する。
試験のフィードバックの方法 1～3回目のレポートについては、授業中にフィードバックを行う。 4回目については、manaba folioに模範解答を掲載する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 （復習）授業で扱った内容について、配布した資料を熟読するほか、新聞などの情報を収集し、自分の見解をまとめておくこと（毎回3時間程度）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外） <参考書等> 授業中に適宜資料を提示するほか、参考書なども紹介する。
オフィスアワー 質問は、授業終了後のほか、随時電子メールで受け付ける。
連絡先 nikaidoy@m.ndsu.ac.jp
留意事項 ①主体的に授業に参加してほしい。特に、演習では、積極的に自分の意見を述べることを求める。 ②manaba folio を利用する予定であるので、各自リマインダ登録しておくこと。 ③定員は40名とし、「N先着」により受講可能者を決定する。 ④1・2年生はもちろん、3・4年生の受講をおおいに期待する。